

富谷町社会福祉協議会 地域福祉活動推進計画

基本理念

心ふれあう

暮らしやすい

福祉のまちづくり

社会福祉法人富谷町社会福祉協議会

目 次

I 計画策定に寄せて

地域福祉活動推進計画見直し策定にあたって	会 長 葛 西 啓 蔵	1
地域福祉活動推進中期実施計画策定によせて	委 員 長 千 葉 芳 樹	2
ご挨拶 地域福祉活動推進計画策定によせて	富谷町長 若 生 英 俊	3

II 計画策定にあたって

1 計画策定の概要について	5
2 計画の位置づけ	5
3 計画の策定の目的	6
4 計画の期間	6
5 計画策定体制	6
6 中期実施計画策定方針	7
7 計画策定の期間	7
8 計画策定体制	7

III 富谷町社会福祉協議会地域福祉活動推進計画（10年）

基本理念・目標・計画（10年）一覧	11
基本目標1 基本計画（1）～（4）	12
基本目標2 基本計画（1）～（4）	13
基本目標3 基本計画（1）～（2）	14
基本目標4 基本計画（1）～（4）	15

IV 富谷町社会福祉協議会地域福祉活動推進計画実施計画（3年）

地域福祉推進体系図	17
基本目標1 「住民参加による福祉のまちづくり」（中期実施計画）	18
基本目標2 「共に支え合う福祉のまちづくり」（中期実施計画）	19
基本目標3 「安心して暮らせる福祉のまちづくり」（中期実施計画）	20
基本目標4 「安定した地域福祉のまちづくり」（中期実施計画）	21

V 資 料 編

社協活動推進計画アンケート調査集計結果	31
二人暮らし交流会（さわやか交流会）に関する聞き取り調査	32
秋の遠足会に関する聞き取り調査	36
家族交流レクリエーションに関する聞き取り調査	40
子育てサロン「とことこ」に関する聞き取り調査	44
地域福祉の推進に関するアンケート調査	51
ボランティアに関するアンケート調査	61
富谷町人口統計資料	68
策定委員会日程予定	69
策定委員会設置要綱	70
策定委員会委員名簿	72
富谷町社会協議会のあゆみ	74
用語解説	76

I 計画策定によせて

地域福祉活動推進計画見直し策定にあたって



社会福祉法人富谷町社会福祉協議会

会 長 葛 西 啓 蔵

近年地域社会を取り巻く情勢は、少子高齢化や核家族化、都市化、経済の低迷などにより福祉ニーズは一層多種多様化しております。

また、地域における絆や連帯感の希薄化の背景が加わっており、地域コミュニティづくりによる地域福祉活動などの促進が求められております。

さらには、地域社会の環境変化する中で、高齢者、障害のある方、子育ての方、健康者などの誰でもが自分の住んでいる地域で、心豊かな生活を生涯暮らしていくためには自助、公助、共助が円滑に醸成されることが必要不可欠であります。

このことから、福祉に対する地域力の再生と活性化を図る必要があり、地域住民、行政、福祉関係機関・団体などと連携し、多くの町民の皆様が地域福祉活動に参画できるとともに、要支援者活動に取り組む福祉のまちづくりが重要であります。

このような課題に当社会福祉協議会では、平成19年度に策定しました「心ふれあう暮らしやすい福祉のまちづくり」を基本理念とする平成20年度から平成29年度までの10ケ年の計画期間であります「富谷町社会福祉活動推進計画」にもとづいて地域福祉の施策に鋭意努力してまいりましたが、向後においても複雑かつ多様化する福祉ニーズ及び福祉課題に取り組みに努めてまいり所存であります。

このたび、この計画の実施計画の見直しは前期3年（平成20年度から平成22年度）・中期3年（平成23年度から平成25年度）・後期4年（平成26年度から平成29年度）となっているため、中期の実施計画を平成22年度に見直しをいたしました。

この実施計画の見直しにあたっては、地域福祉活動推進計画策定委員会委員において、前期3年間の第三者評価をいただき、主として地域コミュニティづくりやボランティア活動機能体制の確立などの地域福祉活動について、中期の実施計画の見直し策定されました。

この見直し実施計画により、地域福祉を担う中枢団体であります当社会福祉協議会が富谷町総合計画の地域福祉に関わる施策と整合性を図り、地域住民の方や関係機関・団体などと連携・協働により富谷町の地域福祉活動を効率的かつ総合的に促進してまいります。

見直し実施計画策定にあたりまして、慎重に審議いただき、そして貴重なご意見やご提案を賜りました地域福祉活動推進計画策定委員の皆様をはじめ、アンケート調査にご協力いただきました住民、福祉団体などの皆様にご心からお礼と感謝を申し上げます。

終わりに、この見直し実施計画のもとに地域福祉の充実の実現に努めてまいりますので、ご理解とご協力を賜りますようお願いいたしましてごあいさついたします。

平成23年5月

地域福祉活動推進中期実施計画策定によせて



社会福祉法人富谷町社会福祉協議会
地域福祉活動推進計画策定委員会

委員長 千葉芳樹

「笑顔輝くあったか富谷」をスローガンとして躍進への青年都市富谷町。町民の皆さんと、さらなる幸せの実感の共有実践に向けて、富谷町社会福祉協議会では「心ふれあう暮らしやすい福祉のまちづくり」を基本理念とし、(1) 住民参加による福祉のまちづくり（たすけあい福祉活動の推進）、(2) 共に支え合う福祉のまちづくり（地域連携・協働・ネットワークの促進）、(3) 安心して暮らせる福祉のまちづくり（自立生活支援のための地域福祉）、(4) 安定した地域福祉のまちづくり（社協の運営・組織の基礎体制整備）の4つの具体目標を掲げ、それぞれの項目に合わせて平成20年に地域福祉活動10ヶ年計画を策定しました。そして、福祉推進関係機関・団体の皆様からのお力添えにより前期3ヶ年が経過しました。その3ヶ年間の実践過程での実績を通して、町民の皆さんの福祉環境づくりへの関心が高まり、意識も深まり、そして活動が広がってまいりました。

そこで、さらなる前進へ向けて前期3ヶ年間の実績の検証・評価と町民の皆さん、関係者の皆さんからのよりよい福祉活動を求めているアンケート調査等をベースとし、中期3ヶ年（平成23～25年）の地域福祉活動推進計画を熟慮を重ねて検討し策定しました。

つきましては、地域福祉活動を「みんなで福祉を支える、とみや！」を合言葉として富谷町の福祉行政とさらなる一体化を図り、福祉関係者の皆さんとあったか福祉の心をしっかり重ね、力強く推進してまいりますので、なお一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

むすびに推進計画策定にあたり、福祉活動の確かな方向性へ向けて精力的な検討にてご尽力いただきました策定委員の皆様、そして準備等にきめ細かなご配慮いただきました事務局の皆様にご心から感謝申し上げます。

平成23年5月

ご挨拶

地域福祉活動推進計画策定によせて



富谷町長 若生 英俊

富谷町社会福祉協議会の日頃の活動に敬意と感謝を申し上げます。

このたび、「地域福祉活動推進計画」が策定されましたことは、富谷町社会福祉協議会に担っていただいている地域福祉の充実と社協活動へのさらなる理解に役立つことが期待されるところであります。

富谷町といたしましても、「幸せを実感でき、笑顔輝くあつたか富谷」の実現のため、きめ細かい福祉施策の展開につとめてまいりますので、ひきつづき連携・協働して推進いただきますようお願い申し上げます。

富谷町は、平成 25 年には「町政施行 50 周年」の記念すべき年を迎えます。平成 23 年度は、「未来へ、新とみや・躍動」を年頭に掲げ、まもなく 5 万人を迎えるにふさわしい町づくりを、町民の皆さんと共に進めてまいります。

むすびに、富谷町社会福祉協議会ならびに地域福祉活動推進計画策定委員をはじめ、策定にご協力をいただきました皆様に心から敬意を表しますとともに、富谷町の地域福祉推進になお一層のご支援とご協力をお願い申し上げまして、ご挨拶といたします。

平成 23 年 5 月

Ⅱ 計画策定にあたって

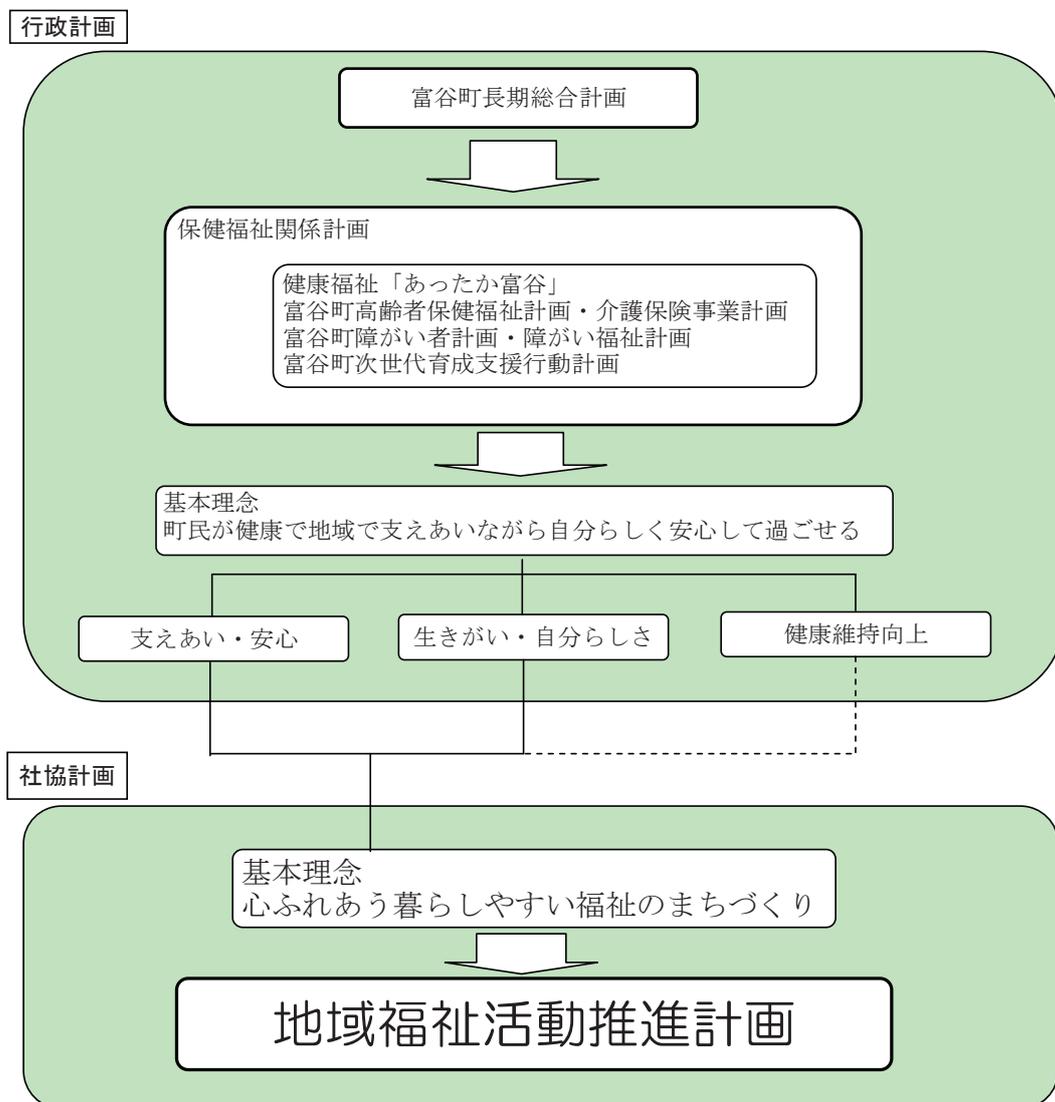
1 計画策定の概要について

人口の少子高齢化、住民意識の多様化等による生活様態の変化に伴い、福祉環境も大きく変化してきています。住民の福祉ニーズの多様化、増加傾向が顕著となり、このような変化に的確に応えるためには、きめ細かな福祉活動の展開が急務であります。

このような中で、社会福祉法人富谷町社会福祉協議会は、基盤の強化を図りながら、地域住民の自発的な福祉活動を促進するため、人間尊重を基本として、将来の社会を担う子供達の健全育成を図るとともに、高齢者や障害者等が住み慣れた家庭や地域の中にあって、温かい心のふれあいを保ちながら、生きがいのある暮らしができるような、一生涯にわたる地域福祉の実現を目指して、富谷町社会福祉協議会地域福祉活動推進計画（以下「地域福祉活動推進計画」とする。）を策定します。

2 計画の位置づけ

計画策定にあたっては、以下の行政が策定している計画と連携・協働のもと、社会福祉協議会の目指すべき目標と方向性を明らかにしたものとします。



3 計画策定の目的

- (1) 長期的展望に立って富谷町社会福祉協議会としての基本理念を示す。
- (2) 当面する課題について段階的な計画の策定と実践活動を進める。
- (3) 住民の福祉ニーズが多様化している中、現状を把握し、体制基盤を整える。

4 計画の期間

- (1) 検討期間及び計画期間

検討期間 平成18年12月～平成20年3月（1年4ヶ月）

計画期間 平成20年度～平成29年度（10ヶ年）

- (2) 計画の構成

地域福祉活動推進計画の基本理念と基本目標を基にした基本計画と短期の事業実施についての実施計画とからなります。基本理念・基本目標・基本計画は10年間を目標年次とし、実施計画は3年を区切りの期間として設定し、3年ごとに行政計画との整合性や見直しを行い、最終年度は、10年間の見直しを行い、新たな地域福祉活動推進計画（第2次）の検討・策定作業に入るものとする。

前期：平成20年度～平成22年度（3ヶ年）

中期：平成23年度～平成25年度（3ヶ年）

後期：平成26年度～平成29年度（4ヶ年）

富谷町社会福祉協議会 地域福祉活動推進計画

20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
← 基本理念・目標・計画（10年） →									
← 実施計画（3年） →			← 実施計画（3年） →			← 実施計画（4年） →			

5 計画策定体制

- (1) アンケート調査

地域福祉活動推進計画の策定に関して、現在の活動状況・事業の現状を把握し、住民の方々から幅広いご意見やご要望を伺う為、社協会員台帳の中から抽出した1割程度の世帯を対象として、アンケート調査を実施しました。

調査期間 平成19年4月23日（月）～5月11日（金）

配布数 1,117人 回収数 445人 回収率 39.8%

- (2) 策定委員会

地域福祉活動推進計画の策定に関して、行政計画との整合性や現状の事業の見直しを図る為、策定委員会を設置し、審議及び計画策定を行いました。

6 中期実施計画策定方針

- (1) 前期の実実施計画による事務事業等の評価及び課題分析・充実強化。
- (2) 地域住民参加による地域福祉活動の推進。

7 計画策定の期間

- (1) 検討期間及び計画期間

検討期間 平成22年7月～平成23年3月（9ヶ月）

計画期間 平成23年度～平成25年度（3ヶ年・実施計画）

8 計画策定体制

- (1) アンケート調査

今回は、平成20年度策定の推進計画に対して、地域の方々がどのような感想・印象を持ったかなど、多少なりとも総論的な部分で地域の声を集める手法を取ったほうが、今後の実施計画策定にあたっての参考になると考え、比較的福祉協議会の中でも重点項目である地域コミュニティ関係及びボランティア関係については、事業に関わりのある関係者だけではなく、地域の方々の声を計画に反映した方が良いとの判断から、アンケート調査に含めたものとして実施しました。

調査期間 平成22年11月1日（月）～11月22日（月）

- (1) 地域コミュニティ関係「地域福祉の推進に関するアンケート」

配布数 220人 回収数 180人 回収率 81%

- (2) ボランティア関係「ボランティアに関するアンケート」

配布数 250人 回収数 140人 回収率 56%

- (2) 聞き取り調査

地域福祉活動推進計画の中期実施計画の見直し策定に関して、現在の福祉協議会事業の現状を把握し、参加者の方々から幅広いご意見やご要望を伺う為、事業の聞き取り調査を実施しました。

調査期間 平成22年10月19日（火）～11月14日（日）

- (1) 高齢者支援関係「さわやか交流会」

配布数 112人 回収数 112人 回収率 100%

- (2) 障害者支援関係「秋の遠足会」

配布数 35人 回収数 35人 回収率 100%

- (3) 障害者支援関係「家族交流レクリエーション」

配布数 18人 回収数 18人 回収率 100%

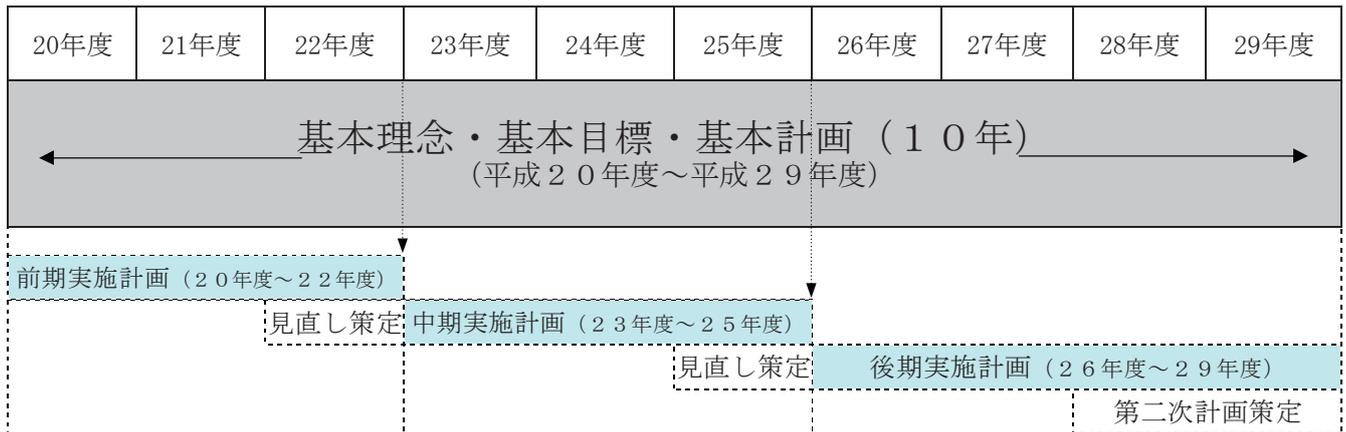
- (4) 子育て支援関係「子育てサロンとことこ」

配布数 54人 回収数 54人 回収率 100%

- (2) 策定委員会

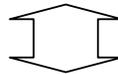
地域福祉活動推進計画の中期実施計画策定に関して、行政計画との整合性や現状の事業の見直しを図る為、策定委員会を設置し、審議及び計画策定を行いました。

富谷町社会福祉協議会 地域福祉活動推進計画



☆基本理念

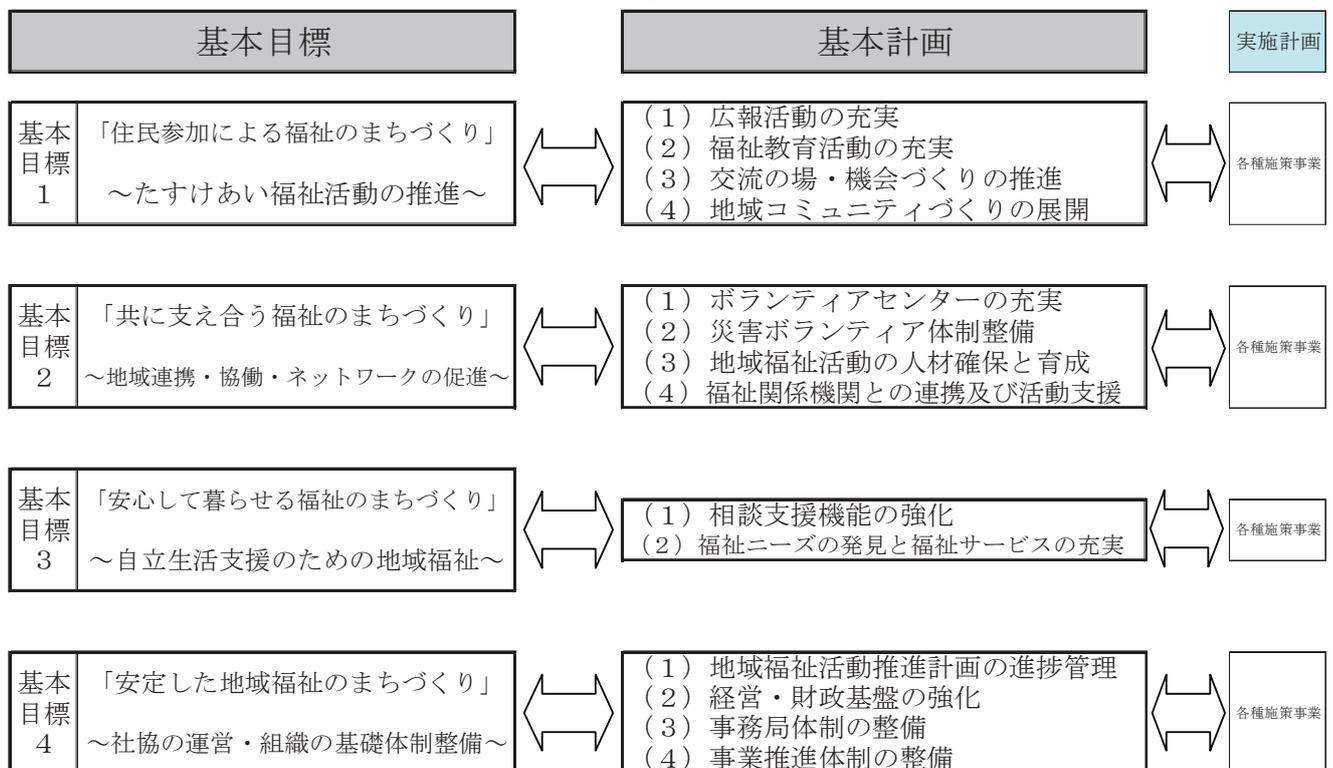
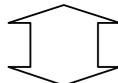
地域福祉活動推進計画は、平成20年度を初年度とし、10年後の平成29年度を目標年次とします。基本理念は、地域福祉推進の指針を明らかにしたものです。



「心ふれあう暮らしやすい福祉のまちづくり」

☆基本目標・基本計画

基本目標・基本計画は、基本理念に定められた将来像を実現する為に、必要な諸施策を体系的に明らかにしたものです。



☆実施計画

実施計画は、基本目標・基本計画の施策を受けて、短期的に実施すべき施策事業等を定めたもので、前期・中期・後期と定期的な見直しを図りながら展開していくものです。

Ⅲ 富谷町社会福祉協議会 地域福祉活動推進計画

基本理念・目標・計画（10年）
（平成20年度～平成29年度）

基本理念

心ふれあう暮らしやすい福祉のまちづくり

助け合いの心

基本目標1 「住民参加による福祉のまちづくり」

～たすけあい福祉活動の推進～

基本計画

- (1) 広報活動の充実
- (2) 福祉教育活動の充実
- (3) 交流の場・機会づくりの推進
- (4) 地域コミュニティづくりの展開

地域ぐるみ

基本目標2 「共に支え合う福祉のまちづくり」

～地域連携・協働・ネットワークの促進～

基本計画

- (1) ボランティアセンターの充実
- (2) 災害ボランティア体制整備
- (3) 地域福祉活動の人材確保と育成
- (4) 福祉関係機関との連携及び活動支援

地域福祉事業

基本目標3 「安心して暮らせる福祉のまちづくり」

～自立生活支援のための地域福祉～

基本計画

- (1) 相談支援機能の強化
- (2) 福祉ニーズの発見と福祉サービスの充実

礎

基本目標4 「安定した地域福祉のまちづくり」

～社協の運営・組織の基礎体制整備～

基本計画

- (1) 地域福祉活動推進計画の進捗管理
- (2) 経営・財政基盤の強化
- (3) 事務局体制の整備
- (4) 事業推進体制の整備

富谷町社会福祉協議会地域福祉活動推進計画
基本理念・基本目標・基本計画（10年計画）一覧

基本理念	「心ふれあう暮らしやすい福祉のまちづくり」
------	-----------------------

番 号	種 別	項 目
1	基本目標	「住民参加による福祉のまちづくり」 ～たすけあい福祉活動の推進～
	基本計画	① 広報活動の充実 ② 福祉教育活動の充実 ③ 交流の場・機会づくりの推進 ④ 地域コミュニティづくりの展開
2	基本目標	「共に支え合う福祉のまちづくり」 ～地域連携・協働・ネットワークの促進～
	基本計画	① ボランティアセンターの充実 ② 災害ボランティア体制整備 ③ 地域福祉活動の人材確保と育成 ④ 福祉関係機関との連携及び活動支援
3	基本目標	「安心して暮らせる福祉のまちづくり」 ～自立生活支援のための地域福祉～
	基本計画	① 相談支援機能の強化 ② 福祉ニーズの発見と福祉サービスの充実
4	基本目標	「安定した地域福祉のまちづくり」 ～社協の運営・組織の基礎体制整備
	基本計画	① 地域福祉活動推進計画の進捗管理 ② 経営・財政基盤の強化 ③ 事務局体制の整備 ④ 事業推進体制の整備

基本目標 1

「住民参加による福祉のまちづくり」 ～たすけあい福祉活動の推進～

現状

- ・住民の助けあいの心に支えられる福祉事業は、近年の地域ニーズや住民の価値観の多様化に対応したふれあい活動が求められている。
- ・地域福祉の中核を担う社協の認知度は、アンケート結果によると「社協の活動内容を知っている」との回答が約4割と低い状況であり、社協の活動に対する理解がまだまだ得られていない状況である。また、「地域生活を送る上で、大切なこと」については、「交流の場、機会」をあげる方が多い状況である。



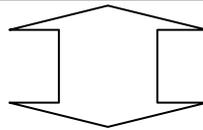
課題

(1) 町民の方が福祉活動に積極的な気持ちを持ち、社協事業の理解を高めるために情報提供や情報の共有が必要である。

(2) 子供たちの高齢者や障害者への思いやりや助け合いの心の育成が必要と考えられる。

(3) 暮らしの中でお互いに知り合い、顔みしりの関係を大切にほどよいコミュニティづくりが求められている。

(4) みんなで地域の課題を考え、共に学びながら協力し合い、よりよい地域づくりのための支援が求められている。



基本計画

(1) 広報活動の充実

- ・社協の事業を知ってもらうために、社協事業や社会資源、福祉活動のノウハウなど、住民が求める情報を、社協だよりやホームページ等で発信し、住民との情報共有に努めます。

(2) 福祉教育活動の充実

- ・児童、生徒が地域福祉に関心を持ち、異世代の理解や障害者への理解など町民総ボランティアの心の育成を図ります。
- ・学校を社会資源（地域福祉の理解者・支援者）として捉え、学校と地域が連携して福祉教育が行えるような環境づくりを支援します。

(3) 交流の場・機会づくりの推進

- ・地域コミュニティの輪が広がるように、ふれあいの場・機会（きっかけづくり）を提供し、住民同士の交流・情報交換が図れるよう支援します。

(4) 地域コミュニティづくりの展開

- ・本町は、人口構成や居住年数等の地区特性が多様な町であります。このため、住民の日常生活エリアごとに住民座談会などを開催し、住民自ら地域ニーズを理解し地域福祉活動が出来るよう支援します。

現状

- ・社協活動の中核となるボランティアについては、高齢化や新たな参加が少なくボランティアセンター登録者は、減少傾向にある。
- ・ボランティア活動意識については、アンケートでは「ボランティアに関心がある」が約7割なのに対して、「実際にボランティア活動をしたことがある」は2割弱という状況で意識は高いものの実際の活動にいたっていない状況である。
- ・ボランティア活動や住民の福祉活動を支援するNPOなどの機関が徐々に設立されてきているが、住民ニーズに対応するためには、まだまだ不足の状況である。



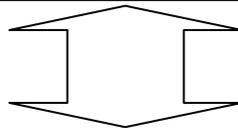
課題

(1) 地域ニーズに合ったボランティア養成と共に、ボランティアの派遣要請と活動希望を調整する体制の充実が急務である。

(2) NPOの設立支援と共に、各関係機関の役割を明確にしながら、地域ぐるみの活動が展開するよう時代に対応したボランティアセンター運営が求められている。

(3) 災害ボランティアについては、人材育成と共に町との連携による体制整備が急務である。

(4) 町内会、民生委員児童委員協議会、老人クラブなど各関係機関との連携・ネットワーク促進が求められている。



基本計画

(1) ボランティアセンターの充実

- ・ボランティア活動への参加促進を行うと共に、ボランティアが地域福祉活動に参画できるようなコーディネート・ボランティア活動の基盤整備を行っていきます。
- ・ボランティア活動の法人化育成支援やNPOとの協働によるボランティア活動の充実に努めます。

(2) 災害ボランティア体制整備

- ・災害に備えて、町と連携をしながら自己防災の普及に努めます。
- ・災害ボランティアに対する支援を行う為、地元ボランティアや関連企業等とのネットワークづくり（助けあい）や支援のための整備を進めます。

(3) 地域福祉活動の人材確保と育成

- ・地域協働で福祉活動を進めるために地域福祉を担う人材の養成・育成に取り組んでいきます。

(4) 福祉関係機関との連携及び活動支援

- ・関係機関の機能と役割を考慮しながら連携を密にし、地域福祉サービスの充実に努めます。
- ・福祉関係団体の主体性に配慮しながら、その活動を支援しながら、ネットワーク促進に努めています。

基本目標3

「安心して暮らせる福祉のまちづくり」 ～自立生活支援のための地域福祉～

現状

- ・認知症高齢者や障害者等を支援する日常生活自立支援事業や福祉資金貸付の相談など、住民の抱える生活上の問題や福祉ニーズの増加により、生活相談をはじめとする多種多様な相談が寄せられている。
- ・福祉サービスは、安心して自立した生活ができるよう家族状況の変化に合わせた支援事業の展開が求められてきている。

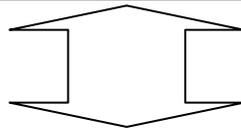


課題

(1) 生活相談後の適切な対応のため、関係機関との調整や連携などネットワークの構築が求められている。さらに、地域における相談の必要な人への働きかけに努めることが必要である。

(2) 福祉サービスの分野においては、介護保険制度などによりサービスの充実が図られてきている中で、制度にはまらないニーズの発見と対応が必要である。

(3) 安心した自立生活ができるよう配食サービスなど町と連携を密にしながら各種サービスの充実が必要である。



基本計画

(1) 相談支援機能の強化

- ・地域で生活する住民が抱える問題に適切に対応出来る様、生活相談事業の機能を強化すると共に県社協と連携を密にしながら日常生活自立支援事業・各種資金貸付事業等の充実を図っていきます。
- ・相談で得た地域の福祉問題を解決するための福祉サービスにつなげていきます。

(2) 福祉ニーズの発見と福祉サービスの充実

- ・町からの委託事業である配食サービスなど高齢者生活支援事業については、町との連携を密にすると共にサービス利用者に直接接する機会を捉え、福祉ニーズの把握に努め福祉事業に活かしていきます。
- ・福祉器具貸与事業等については、介護保険サービスの状況を見極めながら、調整及びあり方の検討をしていきます。
- ・社会福祉協議会の事業に対する苦情解決制度を確立し、利用者する方に配慮した質の向上に努めます。

基本目標 4

「安定した地域福祉のまちづくり」 ～社協の運営・組織の基礎体制整備～

現状

・社協を取り巻く運営環境は、会員加入率の漸減やめまぐるしく変化する社会情勢に対応した取り組みが求められるなど、年々厳しい状況にある。

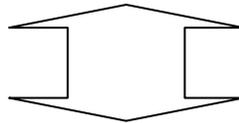


課題

(1) 町民の方々に、社協が地域ニーズに対応した福祉サービスを提供していることを理解して頂き、支援・協力をしてもらうことが必要である。

(2) 地域福祉活動推進計画を着実に実行することが重要である。

(3) 人的強化など事務局体制の充実と共に委員会・理事会・評議員会での事業審議・検討の充実を図り、時代に即した社協運営が必要である。



基本計画

(1) 地域福祉活動推進計画の進捗管理

・計画策定後の進捗状況等についての進行管理について、理事会・委員会等で行います。

(2) 経営・財政基盤の強化

・地域福祉を推進する実施主体としての社協運営を強化する為、安定した自主財源の確保を模索すると共に、社協のPRに努めます。

(3) 事務局体制の整備

・人的強化と共に事務局内研修や外部研修などにより職員の能力向上に努め、町民の生活を支えるサービスの提供に努めます。

(4) 事業推進体制の整備

・役員研修の他、事業企画検討の為に委員会活動や理事会・評議員会の審議の充実により、住民の立場に立った事業の推進に努めます。

IV 富谷町社会福祉協議会 地域福祉活動推進計画

実施計画（3年）

（平成23年度～平成25年度）

富谷町社会福祉協議会地域福祉活動推進計画

実施計画方向性

※実施計画区分について、11月実施のアンケートの集計結果意見及び社会福祉協議会前期実施計画の内容をもとに、以下の項目に集約しております。現状と課題及びアンケート意見において、方向性（具体的展開）を考察しております。

基本目標 1	「住民参加による福祉のまちづくり」 ～たすけあい福祉活動の推進～
--------	----------------------------------

中期実施計画（平成23年度～平成25年度）

番号	種別	項目
1	基本計画	(1) 広報活動の充実
	実施計画 (具体的展開)	① 社協だより・パンフレット等の発行 (旧：社協だより・広報紙等の発行) ② ホームページ活用による情報発信 (旧：インターネット活用による情報発信) ③ 福祉出前講座の実施
2	基本計画	(2) 福祉教育活動の充実
	実施計画 (具体的展開)	① ボランティア協力校との連携・活動支援 ② 福祉教育事業の促進（新規） (旧：福祉教育学習の推進・児童福祉教育事業の実施)
3	基本計画	(3) 交流の場・機会づくりの推進
	実施計画 (具体的展開)	① 高齢者交流事業の促進 (旧：高齢者交流事業の実施) ② 障害者交流事業の促進 (旧：障害者交流事業の実施) ③ 子育て支援事業の促進 (旧：子育て支援事業の実施)
4	基本計画	(4) 地域コミュニティづくりの展開 (旧：地区コミュニティづくりの展開)
	実施計画 (具体的展開)	① 福祉関係団体等との情報交換会の実施（新規） (旧：地域住民座談会の実施) ② 小地域福祉活動（お茶のみ・健康づくり活動等）の支援（新規） (旧：サロン活動（お茶のみ会・健康づくり活動）の支援)

富谷町社会福祉協議会地域福祉活動推進計画

実施計画方向性

※実施計画区分について、11月実施のアンケートの集計結果意見及び社会福祉協議会前期実施計画の内容をもとに、以下の項目に集約しております。現状と課題及びアンケート意見において、方向性（具体的展開）を考察しております。

基本目標 2	「共に支え合う福祉のまちづくり」 ～地域連携・協働・ネットワークの促進～
--------	--------------------------------------

中期実施計画（平成23年度～平成25年度）

番号	種別	項目
1	基本計画	(1) ボランティアセンターの充実
	実施計画 (具体的展開)	① 地域住民のニーズ把握（新規） （旧：NPO・ボランティア活動に関する調査研究・ボランティアニーズの把握） ② ボランティア登録の推進（新規） （旧：NPO・ボランティア活動に関する調査研究・ボランティアニーズの把握） ③ ボランティアコーディネート機能の充実（新規） ④ ボランティアセンター情報ネットワークの構築 （旧：ボランティア情報ネットワークの体制整備）
2	基本計画	(2) 災害ボランティア体制整備
	実施計画 (具体的展開)	① 支え合いの実現に向けた防災意識の啓発 ② 災害ボランティアセンター体制整備の実施 （旧：災害ボランティア協力員養成講座の実施・地元ボランティアとの連携体制整備の整備） ③ 行政及び地元関連企業等との連携の推進 （旧：地元関連企業等との連携の促進）
3	基本計画	(3) 地域福祉活動の人材確保と育成
	実施計画 (具体的展開)	① ボランティアの育成 （旧：各種ボランティア講座の実施） ② 個人及びボランティア団体活動への支援（新規） ③ ボランティア情報交換の体制整備（新規）
4	基本計画	(4) 福祉関係機関との連携及び活動支援
	実施計画 (具体的展開)	① 行政との連携・協力 ② 各種福祉関係団体への活動支援 ③ 共同募金事業との連携・協力

富谷町社会福祉協議会地域福祉活動推進計画

実施計画方向性

※実施計画区分について、11月実施のアンケートの集計結果意見及び社会福祉協議会前期実施計画の内容をもとに、以下の項目に集約しております。現状と課題及びアンケート意見において、方向性（具体的展開）を考察しております。

基本目標3	「安心して暮らせる福祉のまちづくり」 ～自立生活支援のための地域福祉～
-------	-------------------------------------

中期実施計画（平成23年度～平成25年度）

番号	種別	項目
1	基本計画	(1) 相談支援機能の強化
	実施計画 (具体的展開)	① 生活相談事業の実施・運営強化 ② 成年後見制度（法人後見）の実施検討（新規） （旧：日常生活自立支援事業の推進・成年後見制度の情報発信） ③ 各種資金貸付事業の実施（生活福祉資金等）
2	基本計画	(2) 福祉ニーズの発見と福祉サービスの充実
	実施計画 (具体的展開)	① 高齢者生活支援・生きがい健康づくり事業の実施 ② 福祉器具等貸与事業のあり方検討 （旧：福祉器具等貸与事業の調整・あり方検討） ③ 苦情解決第三者委員会の機能強化 （旧：社会福祉協議会苦情解決制度の体制整備）

富谷町社会福祉協議会地域福祉活動推進計画

実施計画方向性

※実施計画区分について、11月実施のアンケートの集計結果意見及び社会福祉協議会前期実施計画の内容をもとに、以下の項目に集約しております。現状と課題及びアンケート意見において、方向性（具体的展開）を考察しております。

基本目標 4	「安定した地域福祉のまちづくり」 ～社協の運営・組織の基礎体制整備～
--------	------------------------------------

中期実施計画（平成23年度～平成25年度）

番号	種別	項目
1	基本計画	(1) 地域福祉活動推進計画の進捗管理
	実施計画 (具体的展開)	① 地域福祉活動推進計画の進捗管理及び計画の弾力的な運用
2	基本計画	(2) 経営・財政基盤の強化
	実施計画 (具体的展開)	① 社会福祉協議会会員啓発活動の促進 (旧：社会福祉協議会会員加入活動及び推進・社会福祉協議会啓発活動の強化) ② 収益事業展開への実施に向けての検討（新規） (旧：地域福祉活動への財源確保の検討)
3	基本計画	(3) 事務局体制の整備
	実施計画 (具体的展開)	① 効率的運用 ② 職員研修の実施
4	基本計画	(4) 事業推進体制の整備
	実施計画 (具体的展開)	① 総合的な企画運営の推進 ② 理事会・評議員会・監査会等の機能強化 (旧：理事会・評議員会・監査会の実施・各種会議、委員会の実施) ③ 情報の管理

基本目標 1	「住民参加による福祉のまちづくり」 ～たすけあい福祉活動の推進～
基本計画	(1) 広報活動の充実 (2) 福祉教育活動の充実 (3) 交流の場・機会づくりの推進 (4) 地域コミュニティづくりの展開



中期実施計画（平成23年度～平成25年度）

(1) 広報活動の充実

① 社協だより・パンフレット等の発行

前期目標 ・社協の概要が分かるようなパンフレット作成を行い、住民が情報に触れ、理解する機会を多く持てるようにします。	中期目標 ・地域性を重視したページや住民参加型のページを設けるなど、親しみやすい内容となるよう工夫します。 ・施設・病院・商店等人が集まる場所で、多くの人に読んでもらえるように配慮します。
--	---

② ホームページ活用による情報発信

前期目標 ・ホームページ更新頻度の充実を図り、情報提供の充実を図ります。	中期目標 ・広報誌との役割分担のもと、外部委託を含め、より多くの福祉情報を的確に提供できるよう内容の充実に努めます。
--	--

③ 福祉出前講座の実施

前期目標 ・地域からの要請に伴い、町と連携のもと、社協事業及び福祉全般に関する講座を実施します。	中期目標 ・事業内容の周知に一層努めると共に、町との連携のもと、社協事業及び福祉全般に関する講座を実施します。
--	---

(2) 福祉教育活動の充実

① ボランティア協力校との連携・活動支援

前期目標 ・町と連携のもと学校でのボランティア活動や福祉教育推進の為に情報交換や連絡調整等を行います。 ・社協だよりや広報誌等において、各校の福祉教育への取組について情報提供を行うよう努めます。	中期目標 ・学校において取り組まれている福祉教育やボランティア活動の実践に対して、各種教材の貸出をはじめ、情報提供、ゲストティーチャーの派遣、活動内容の企画支援等を行います。 ・社協だよりや広報誌等において、各校の福祉教育への取組について情報提供を行うよう努めます。
--	--

② 福祉教育事業の促進（新規）

前期目標	中期目標 ・地域住民の高齢者や障害者に対する理解が深まるように、サポーターと協力しながら、より具体的な福祉体験学習の実施に努めます。 ・児童や生徒を対象とした夏の福祉体験（ボランティア）事業をはじめとする体験型学習を推進し、幅広い学習方法の確保に努めます。
-------------	---



(3) 交流の場・機会づくりの推進

① 高齢者交流事業の促進

<p>前期目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が地域でいきいきと生活できるよう支援すると共に、仲間づくり（きっかけづくり）を推進しながら、事業を通じて見える地域(生活上)のニーズ把握に努めます。 	<p>中期目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が地域でいきいきと生活できるよう支援すると共に、関係機関と連携しながら、身近な地域で開催されている交流事業等への周知声かけを行い、仲間づくり（きっかけづくり）を推進しながら、事業を通じて見える地域(生活上)のニーズ把握に努めます。
---	--

② 障害者交流事業の促進

<p>前期目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者団体間や家族間での交流促進と仲間づくりを支援（きっかけづくり）すると共に、参加者の地域(生活上)のニーズ把握に努めます。 	<p>中期目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者団体間や家族間での交流促進と仲間づくりを支援（きっかけづくり）すると共に、福祉関係団体と連携しながら、参加者の地域(生活上)のニーズ把握に努めます。
---	---

③ 子育て支援事業の促進

<p>前期目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町や関係機関と連携の上、各地域での子育て事業への活動支援を行い”地域ぐるみの子育て”を目指し、子育て世代の方の交流促進を図りながら「とことこ」の自主的な活動の可能性を見極めるよう努めます。 	<p>中期目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てサロン「とことこ」のサポーターの自主的な活動の支援を行うよう努めます。 ・地域の施設等を積極的に活用し、子育て世代の方々の交流促進を図ります。 ・社協としての相談支援機能の充実を図ります。
--	---

(4) 地域コミュニティづくりの展開

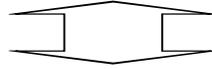
① 福祉関係団体等との情報交換会の実施（新規）

<p>前期目標</p>	<p>中期目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉活動実践者の交流機会を確保し、情報交換や連携づくりを支援します。 ・同じ福祉ニーズをもつ人たちが相互に連帯しあい、課題解決に向けた検討や行動を共に行えるような場・組織づくりを支援します。
--------------------	--

② 小地域福祉活動（お茶のみ会・健康づくり活動等）の支援（新規）

<p>前期目標</p>	<p>中期目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で行われている福祉活動の実態把握に努めます。 ・社協としてコーディネートする役割を担いながら、関係機関と連携の上、地域に根ざしたコミュニティづくりの支援展開に努めます。
--------------------	---

基本目標 2	「共に支え合う福祉のまちづくり」 ～地域連携・協働・ネットワークの促進～
基本計画	(1) ボランティアセンターの充実 (2) 災害ボランティア体制整備 (3) 地域福祉活動の人材確保と育成 (4) 福祉関係機関との連携及び活動支援



中期実施計画（平成23年度～平成25年度）

(1) ボランティアセンターの充実

① 地域住民のニーズ把握（新規）

前期目標		中期目標	・関係機関等と情報交換を通じて連携しながら、地域住民の現状・課題の把握に努めます。
------	--	------	---

② ボランティア登録の推進（新規）

前期目標		中期目標	・町内で活動するボランティアやNPO等の活動状況を身近に感じられるようなきっかけづくり（広報等で周知）に努めます。 ・ボランティア活動に関する問い合わせや相談、活動の斡旋を行うボランティアセンターの機能強化に努めながら、新しいボランティア登録者の推進に努めます。 ・行政や福祉施設等の関係機関との連携を強化し、地域でのイベント等に積極的に参画できるように支援します。
------	--	------	---

③ ボランティアコーディネイト機能の充実（新規）

前期目標		中期目標	・ボランティアコーディネイトの資質向上に努め、ボランティアからの相談やコーディネイト等の支援を強化します。
------	--	------	---

④ ボランティアセンター情報ネットワークの構築

前期目標	・社協の持つ情報や各団体とのネットワークをより充実させながら、町内や各地域のボランティア活動推進に関わる機関・団体間で情報を共有できるようなネットワークづくりの整備を進めます。	中期目標	・広報誌でボランティア活動への参加を啓発するとともに、ホームページで活動内容の紹介や募集情報の提供、施設・団体からのボランティア要請の受付など、インターネットの活用による利便性の向上を図ります。
------	--	------	---

(2) 災害ボランティア体制整備

① 支え合いの実現に向けた防災意識の啓発

前期目標	・住民に対して、自己防災に対する啓蒙を行いながら、日頃から災害への意識を高める活動を行い、地域での助け合い・支えあい活動の支援に努めます。	中期目標	・住民に対して、自己防災に対する啓蒙を行いながら、日頃から災害への意識を高める活動を行い、地域での助け合い・支えあい活動のより一層の支援に努めます。
------	---	------	--

② 災害ボランティアセンター体制整備の実施

前期目標	・災害時のボランティア活動を支援するボランティアセンターの体制整備及び人材の育成・確保等に重点を置いた講座を開催します。	中期目標	・行政や広域社協と連携しながら、災害ボランティアセンターの体制整備に係る事業展開（マニュアル・人材育成）に努めるとともに、住民の方々に対する啓発活動を行います。
------	--	------	--

③ 行政及び地元関連企業等との連携の推進

前期目標	・町に協力しながら、関係機関との連携及び町内の地元企業（スーパー・ガソリンスタンド等）との連携について体制整備を図ります。	中期目標	・行政と協力しながら、災害時の事業展開を行いながら、町内の地元企業との連携のあり方について、情報交換を行いながら体制整備を図ります。
------	---	------	--



(3) 地域福祉活動の人材確保と育成

① ボランティアの育成

前期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・一般住民対象のボランティア活動のきっかけづくりを目的とした講座や活動分野別(キャップハンディインストラクターや子育てサポーター等)で行うボランティア講座等を開催しています。 	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における福祉活動と連携した実践的な内容となるよう、福祉講座の内容充実に取り組むと共に、若い世代や仕事をしている人、団塊の世代等を対象とした講座を企画・開催しながら、新しいボランティア層の育成に努めます。
-------------	---	-------------	--

② 個人及びボランティア団体活動の支援(新規)

前期目標		中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアに対し、正しい知識と高い意識を持ち、活動が継続して長く続けられるよう適切な支援を行います。 ・講座修了者へのフォローアップ研修を実施するなど、継続的な学習機会を確保します。
-------------	--	-------------	--

③ ボランティア情報交換の体制整備(新規)

前期目標		中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動者間の意見交換等を通じながら、ボランティアセンターの必要性についての認識を深めるような体制整備に努めます。
-------------	--	-------------	--

(4) 福祉関係機関との連携及び活動支援

① 行政との連携・協力

前期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・町関係機関(保健福祉課等)との連携体制を図っています。 	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・町関係機関(福祉部等)との連携体制を図り、社協事業に反映させるよう努めます。
-------------	--	-------------	---

② 各種福祉関係団体への活動支援

前期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・町内の福祉関係団体(民生委員・児童委員協議会、母子福祉会、遺族会、手をつなぐ育成会、やおき会、身体障害者福祉協会等)との連携及び活動支援をしています。 	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・町内の福祉関係団体(民生委員・児童委員協議会、母子福祉会、遺族会、手をつなぐ育成会、やおき会、身体障害者福祉協会等)との連携を行い、自立的な会運営の一助となるよう活動支援に努めます。
-------------	--	-------------	--

③ 共同募金事業との連携・協力

前期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・町内における共同募金活動の推進を行う団体との連携を図り、歳末たすけあい募金の配分をしています。 	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・町内における共同募金活動の推進を行う団体との連携を図り、実情に即した歳末たすけあい募金の配分のあり方について検討を行います。
-------------	--	-------------	---

基本目標 3	「安心して暮らせる福祉のまちづくり」 ～自立生活支援のための地域福祉～
基本計画	(1) 相談支援機能の強化 (2) 福祉ニーズの発見と福祉サービスの充実



中期実施計画（平成23年度～平成25年度）

(1) 相談支援機能の強化

① 生活相談事業の実施・運営強化

前期目標	<ul style="list-style-type: none"> 生活相談の内容が多重債務・借金・相続等専門知識を必要とする為、生活相談員の研修を充実させるなど、地域の方が安心して暮らしていく為の支援が出来るよう機能強化するよう努めます。 	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> 生活相談の内容が多重債務・借金・相続等専門知識を必要とする為、生活相談員の研修を充実させるなど、地域の方が安心して暮らしていく為の支援が出来るよう機能強化するよう努めます。 行政や県社協との連携を密にしながら、日常生活自立支援事業（まもり一歩）を通して、支援の中で福祉サービスの必要など他のニーズも把握し、関係機関につなぐ役割を担えるよう努めます。
------	--	------	---

② 成年後見制度（法人後見）の実施検討（新規）

前期目標		中期目標	<ul style="list-style-type: none"> 地域で自立した生活を行えるよう成年後見制度（法人後見）の実施に向けた検討を関係機関と行うよう努めます。
------	--	------	---

③ 各種資金貸付事業の実施（生活福祉資金等）

前期目標	<ul style="list-style-type: none"> 生活状況等の実情を把握した上で、町や保健福祉事務所等関係機関につなぐ役割や在宅福祉の増進及び生活意欲の助長促進を図り、世帯更生及び安定を図るための支援を行うよう努めます。 	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> 生活状況等の実情を把握した上で、行政や保健福祉事務所等関係機関につなぐ役割や在宅福祉の増進及び生活意欲の助長促進を図り、世帯更生及び安定を図るための支援を行うよう努めます。
------	---	------	--



(2) 福祉ニーズの発見と福祉サービスの充実

① 高齢者生活支援・生きがい健康づくり事業の実施

前期目標

・地域の高齢者の生活の安定を図るための支援を町と連携のもと実施し、新たな福祉ニーズの把握を行い、福祉事業に生かすよう努めます。

中期目標

・地域の高齢者の生活の安定を図るための支援を町と連携のもと実施し、新たな福祉ニーズの把握を行い、福祉事業に生かすよう努めます。

② 福祉器具等貸与事業のあり方検討

前期目標

・介護保険制度の現状を把握しながら特殊寝台（介護用ベット）・エアーマット・車椅子の貸与について、調整や今後のあり方を検討します。

中期目標

・介護保険法や障害者自立支援法を踏まえ、関係団体との意見を聞きながら、必要性のある貸与事業の構築に向けて、委員会組織で協議いたします。

③ 苦情解決第三者委員会の機能強化

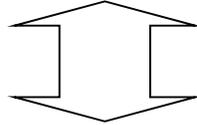
前期目標

・社協が行う事業に対して、苦情の受付・対応の為の体制整備を行い、利用者の方が安心して相談・サービスを受けられるよう努めます。

中期目標

・社協が行う事業に対して、苦情の受付・対応の為の体制整備を行い、利用者の方が安心して相談・サービスを受けられるよう努めます。
・第三者委員の方々への研修会等を通じながら、フォローアップに努めます。

基本目標 4	「安定した地域福祉のまちづくり」 ～社協の運営・組織の基礎体制整備～
基本計画	(1) 地域福祉活動推進計画の進捗管理 (2) 経営・財政基盤の強化 (3) 事務局体制の整備 (4) 事業推進体制の整備



中期実施計画（平成23年度～平成25年度）

(1) 地域福祉活動推進計画の進捗管理

① 地域福祉活動推進計画の進捗管理及び計画の弾力的な運用

前期目標	・地域福祉活動推進計画施行後の進行管理を、理事会・委員会等で実施します。また、今後の社会情勢の変化などに柔軟に対応するため、必要に応じて弾力的な運用を行います。	中期目標	・地域福祉活動推進計画施行後の進捗管理を、理事会・委員会等で実施します。また、今後の社会情勢の変化などに柔軟に対応するため、必要に応じて弾力的な運用を行います。
------	--	------	--

(2) 経営・財政基盤の強化

① 社会福祉協議会会員啓発活動の促進

前期目標	・広報等の情報発信により、社協の活動内容をPRし、町民の活動理解と会費会員制度への理解協力を努めます。・地域福祉活動への住民の方々の理解が得られるよう、福祉活動推進委員長の協力もいただきながら、広報活動等を充実しながら一層の啓発に努めます。	中期目標	・広報誌、ホームページ、パンフレットなどを活用して、地域福祉の必要性を分かりやすく発信するとともに、社協会員会費への理解を促進します。 ・関係機関等との意見交換の場を設け、地域福祉への理解を求めるとともに、社協活動への参画を呼びかけていきます。
------	--	------	---

② 収益事業展開への実施に向けての検討（新規）

前期目標		中期目標	・社協として、補助金や受託金以外の財源確保の可能性について、調査検討を進めます。 ・他社協との情報交換や意見交換を行うとともに、先進的な取り組みを行っている事例を調査・研究します。
------	--	------	---

(3) 事務局体制の整備

① 効率的運用

前期目標	・社協の事業内容に合わせた職員体制の検討や業務を効率的に行う為の体制整備に努めます。	中期目標	・社協の事業内容に合わせた職員体制の検討や業務を効率的に行う為の体制整備に努めます。
------	--	------	--

② 職員研修の実施

前期目標	・職員に対する社協内部研修や外部研修へ積極的に参加を行い、住民の方々へのより良いサービスに努めます。	中期目標	・職員に対する社協内部研修や外部研修へ積極的に参加を行い、住民の方々へのより良いサービスに努めます。
------	--	------	--



(4) 事業推進体制の整備

① 総合的な企画運営の推進

前期目標

・最近の社協を取り巻く環境の変化に対応した組織運営を行う為、社協の使命や役割を再確認し、長期的な運営方針に関する事項について役職員一丸となって推進するよう努めます。

中期目標

・最近の社協を取り巻く環境の変化に対応した組織運営を行う為、社協の使命や役割を再確認し、長期的な運営方針に関する事項について役職員一丸となって推進するよう努めます。

② 理事会・評議員会・監事会等の機能強化

前期目標

・時代の要請に応じた社協の果たすべき社会的責任を踏まえた上で、円滑な社協事業運営が行えるよう努めます。

中期目標

・時代の要請に応じた社協の果たすべき社会的責任を踏まえた上で、円滑で健全な社協事業運営が行えるよう努めます。
・地域福祉の推進や法人運営のあり方等について、社協としての福祉課題に対するより効果的な事業の実施を図ります。

③ 情報の管理

前期目標

・個人情報保護法等の情報管理体制（会員台帳の整備）を遵守し、適正な社協運営を目指すよう努めます。

中期目標

・個人情報保護法等の情報管理体制（会員台帳の整備）を遵守し、適正な社協運営を目指すよう努めます。

V 資 料 編

社協活動推進計画アンケート調査集計結果

(1) 聞き取り調査

	配布数	回収数	回収率
・ 高齢者支援関係 「さわやか交流会」 (10月19日)	112	112	100%
・ 障害者支援関係 「秋の遠足会」 (10月27日)	35	35	100%
・ 障害者支援関係 「家族交流レクリエーション」 (11月13日)	18	18	100%
・ 子育て支援関係 「子育てサロンとことこ」 (10月25日～11月14日)	54	54	100%

(2) アンケート調査 (11月1日～11月22日)

	配布数	回収数	回収率
・ 地域コミュニティ関係 「地域福祉の推進に関するアンケート」	220	180	81%
・ ボランティア関係 「ボランティアに関するアンケート調査」	250	140	56%

問8 今後の「さわやか交流会」について、あなたのご意見ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

<hr/> <hr/> <hr/>

問9 「さわやか交流会」以外にどのような交流の場に参加していますか。(3つまで○)

- | | |
|-------------|------------------|
| 1 ゆとりすとサロン | 2 公民館のサークル活動 |
| 3 老人クラブ活動 | 4 シルバー人材センターでの活動 |
| 5 スポーツクラブ活動 | 6 デイ・サービス |
| 7 その他 () | |

今後の参考にああなたのご意見を伺います

問10 あなたは生活上の悩みがある場合に相談相手はいますか。(3つまで○)

- | | | |
|---------|-------------|------------|
| 1 家族 | 2 近所の人 | 3 知人や友人 |
| 4 医療機関 | 5 福祉サービス事業所 | 6 民生・児童委員 |
| 7 町内会長 | 8 町役場 | 9 社会福祉協議会 |
| 10 福祉施設 | 11 特にない | 12 その他 () |

問11 あなたが今後、社会福祉協議会に求められるボランティア活動として、重要と考えられる活動はどれですか。(1つに○)

- 1 地域での高齢者交流サロンで活動するボランティア
- 2 在宅でのお話し相手としての活動する傾聴ボランティア
- 3 在宅での家事援助(お買い物)や移動支援(介助)を行うボランティア
- 4 福祉施設(特別養護老人ホーム等)で利用者との交流やお手伝いをするボランティア
- 5 その他 ()

問12 あなたは、今後の生活の上でどのような支援が必要だとお考えですか。(1つに○)

- 1 二人暮らしのため、在宅での定期的なボランティアの支援が必要だと考える
- 2 生きがい健康づくりのきっかけづくりの為、講座や教室の開催が必要だと考える
- 3 仲間づくりのきっかけがほしい為、定期的集える場づくり(サロン)が必要だと考える
- 4 その他 ()

問13 あなたは今後の社会福祉協議会の高齢者支援に何を望みますか。(1つに○)

- 1 ボランティア(高齢者向け)の育成(例:傾聴ボランティア・福祉施設での活動)
- 2 地域高齢者サロン活動の支援(例:地域で自主的に活動しているお茶のみ会の支援)
- 3 権利擁護事業の組織体制整備(例:金銭の管理や福祉サービス利用の困難な方の支援)
- 4 高齢者に関する相談や情報提供の充実(例:日常生活上の福祉の困りごとについて相談)
- 5 その他 ()

ご協力ありがとうございました

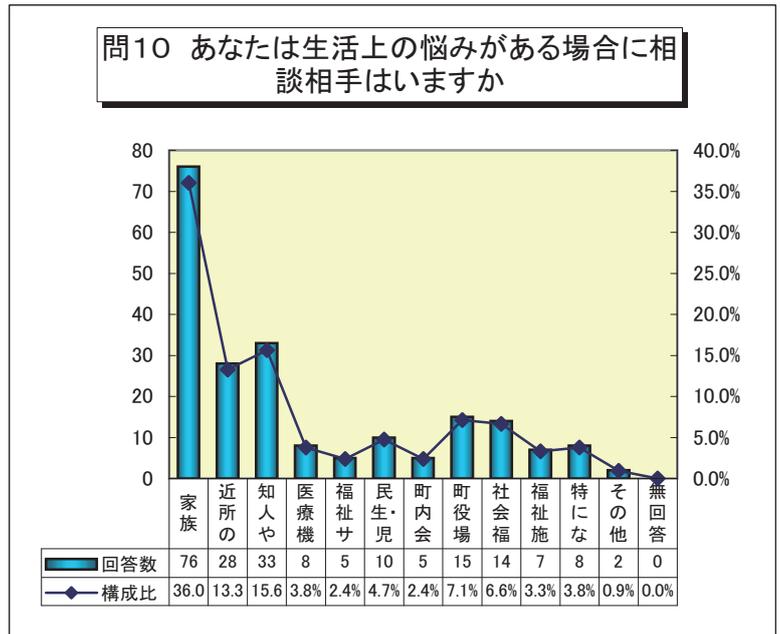
「二人暮らし交流会（さわやか交流会）に関する聞き取り調査」集計表

65歳以上の二人暮らしの交流会での調査となったが、相談相手については、家族及び近所並びに知人や友人の3つで約7割を占め、日頃からの近所づきあい小地域福祉活動の大切さを改めて認識する結果となっています。社協に求められるボランティア活動として、地域で高齢者交流サロンで活動するボランティアが約5割を占めており、地域で福祉活動を展開している方々とのつながりを深めていく事が大切であると感じさせられる結果となっています。今後の高齢者支援については、相談や情報提供を望む声が4割と多く、情報発信と共に、2番目に高いボランティアの育成にあるような人材育成を望む声が多い事が確認され、社協の今後の高齢者支援にとって貴重なデータとなっています。

問10 あなたは生活上の悩みがある場合に相談相手はいますか。（3つまで）

	回答数	構成比
家族	76	36.0%
近所の人	28	13.3%
知人や友人	33	15.6%
医療機関	8	3.8%
福祉サービス事業所	5	2.4%
民生・児童委員	10	4.7%
町内会長	5	2.4%
町役場	15	7.1%
社会福祉協議会	14	6.6%
福祉施設	7	3.3%
特にない	8	3.8%
その他	2	0.9%
無回答	0	0.0%
計	211	100.0%

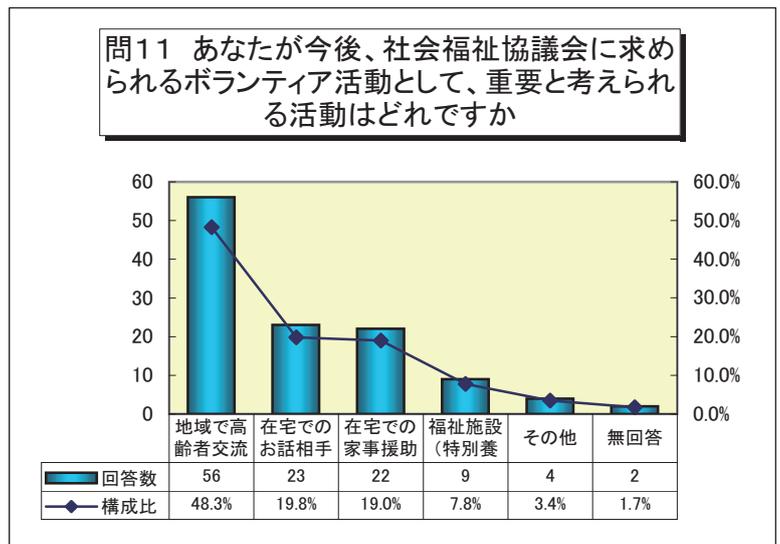
生活上の悩みがある場合の相談相手については、家族及び近所並びに知人や友人の3つで約7割を占めており、日頃からの近所づきあい小地域福祉活動の大切さを改めて認識する結果となっています。



問11 あなたが今後、社会福祉協議会に求められるボランティア活動として、重要と考えられる活動はどれですか。

	回答数	構成比
地域で高齢者交流サロンで活動するボランティア	56	48.3%
在宅でのお話相手としての活動する傾聴ボランティア	23	19.8%
在宅での家事援助（お買い物）や移動支援（介助）を行うボランティア	22	19.0%
福祉施設（特別養護老人ホーム等）で利用者との交流やお手伝いをするボランティア	9	7.8%
その他	4	3.4%
無回答	2	1.7%
計	116	100.0%

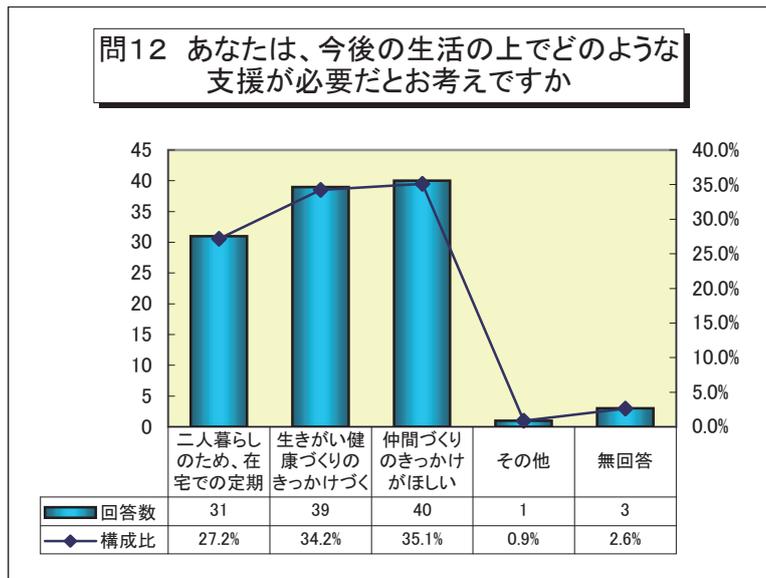
社協に求められるボランティア活動として、地域で高齢者交流サロンで活動するボランティアが約5割を占めており、地域で福祉活動を展開している方々とのつながりを深めていく事が大切であると感じさせられる結果となっています。



問12 あなたは、今後の生活の上でどのような支援が必要だとお考えですか。

	回答数	構成比
二人暮らしのため、在宅での定期的なボランティアの支援が必要だと考える	31	27.2%
生きがい健康づくりのきっかけづくりの為、講座や教室の開催が必要だと考える	39	34.2%
仲間づくりのきっかけがほしい為、定期的集える場づくり(サロン)が必要だと考える	40	35.1%
その他	1	0.9%
無回答	3	2.6%
計	114	100.0%

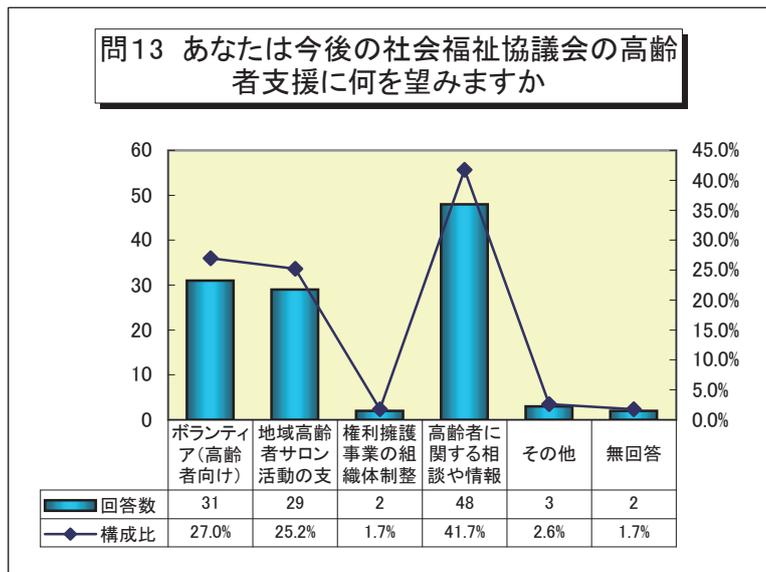
今後の生活の上での支援については、仲間づくりのきっかけとなるための定期的集える場づくりが必要との値が一番高く、問11の結果と連動して地域での福祉活動の重要性を感じる事ができるデータとなっています。



問13 あなたは今後の社会福祉協議会の高齢者支援に何を望みますか。

	回答数	構成比
ボランティア(高齢者向け)の育成	31	27.0%
地域高齢者サロン活動の支援	29	25.2%
権利擁護事業の組織体制整備	2	1.7%
高齢者に関する相談や情報提供の充実	48	41.7%
その他	3	2.6%
無回答	2	1.7%
計	115	100.0%

社協の今後の高齢者支援については、相談や情報提供を望む声が4割と多く、情報発信と共に、2番目に高いボランティアの育成にあるような人材育成を望む声が多い事が確認され、社協の今後の高齢者支援にとって貴重なデータとなっています。



問8 今後の「秋の遠足会」の事業内容について、あなたのご意見ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

<hr/> <hr/> <hr/>

今後の参考にああなたのご意見を伺います

問9 あなたは生活上の悩みがある場合に相談相手はいますか。(3つまで○)

- | | | |
|--------------|-------------|-----------|
| 1 家族 | 2 近所の人 | 3 知人や友人 |
| 4 医療機関 | 5 福祉サービス事業所 | 6 民生・児童委員 |
| 7 町内会長 | 8 町役場 | 9 社会福祉協議会 |
| 10 福祉施設(作業所) | 11 特にない | 12 その他() |

問10 あなたが今後、社会福祉協議会に求められるボランティア活動として、重要と考えられる活動はどれですか。(1つに○)

- 1 地域での障害者交流サロンで活動するボランティア
- 2 余暇支援(お話し相手)として活動する傾聴ボランティア
- 3 外出する際の移動支援(介助)を行うボランティア
- 4 福祉施設(作業所等)で利用者との交流やお手伝いをするボランティア
- 5 その他()

問11 社会福祉協議会では、今後障害のある方が安心して日常生活が送れるよう、成年後見制度の利用支援(一定の要件を満たしている方を対象に社協が後見人になる「法人後見」)を視野に検討していますが、それに対してあなたはどのようにお考えですか。(1つに○)

- 1 実施してほしい
- 2 周囲の実施状況を把握した上で、実施を視野に検討してほしい
- 3 実施すべきでない
- 4 その他()

成年後見制度とは・・・障害や認知症などの理由で判断能力の不十分な方々に対して、不動産や預貯金などの財産を管理したり、身のまわりの世話のために介護などのサービスや施設への入所に関する契約を結んだりすることによって、判断能力の不十分な方々を保護し、支援を行う制度のことをいいます。

問12 あなたは今後の社会福祉協議会の障害者支援に何を望みますか。(3つまで○)

- 1 ボランティア(障害者向け)の育成(例:余暇支援ボランティア・福祉施設での活動)
- 2 成年後見制度の組織体制整備(例:金銭の管理や福祉サービス利用の困難な方の支援)
- 3 障害者に関する相談や情報提供の充実(例:日常生活上の福祉の困りごとについての相談)
- 4 当事者同士の情報交換(例:お互いにゆったりとお話しが出来、情報交換ができる場づくり)
- 5 その他()

ご協力ありがとうございました

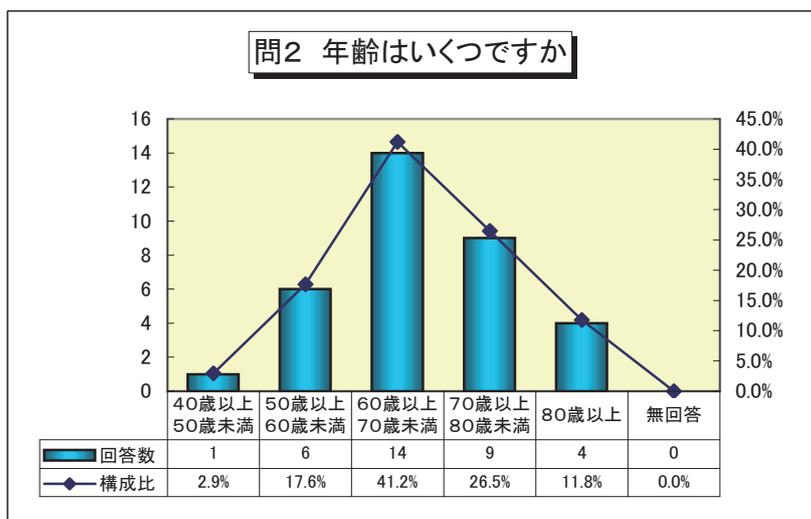
「秋の遠足会に関する聞き取り調査」集計表

富谷町の身体障害者福祉協会会員の方々を対象としての調査となったが、参加対象の年齢を比較してみると、60歳以上～80歳未満の参加者層が約7割となっている。要因としては、会員自体の平均年齢が高くなっている傾向が考えられます。新規の会員受け入れの周知も必要ではないかと考えられます。社協の情報入手先については、社会福祉協議会が全体の3割を占める値となっている他、次いで、町広報誌と社協広報誌が高い値となっていますが、社協の値が高い要因としては、事務局機能が4月より社協へ移動したことが考えられる為だと考えられます。今後の障害者支援については、当事者同士の情報交換が高い値を示している。このような場の設定については、徐々にではあるが整備されている面があるとはいえ、充実すべき点があると考えられる為、今後は社協として出来る障害者支援について検討を進めるべきだと考えます。

問2 年齢はいくつですか

	回答数	構成比
40歳以上50歳未満	1	2.9%
50歳以上60歳未満	6	17.6%
60歳以上70歳未満	14	41.2%
70歳以上80歳未満	9	26.5%
80歳以上	4	11.8%
無回答	0	0.0%
計	34	100.0%

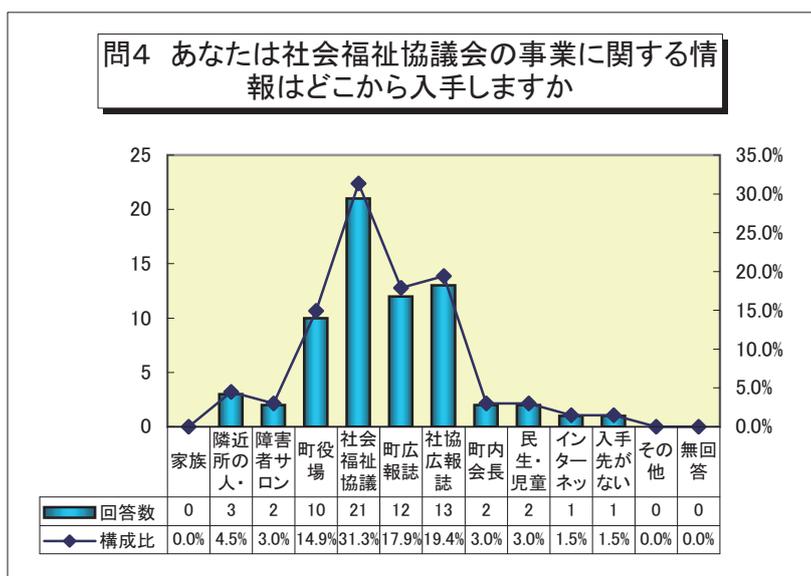
参加対象の年齢を比較してみると、60歳以上～80歳未満の参加者層が約7割となっている。要因としては、会員自体の平均年齢が高くなっている傾向が考えられます。新規の会員受け入れの周知も必要ではないかと考えられます。



問4 あなたは社会福祉協議会の事業に関する情報はどこから入手しますか。(3つまで)

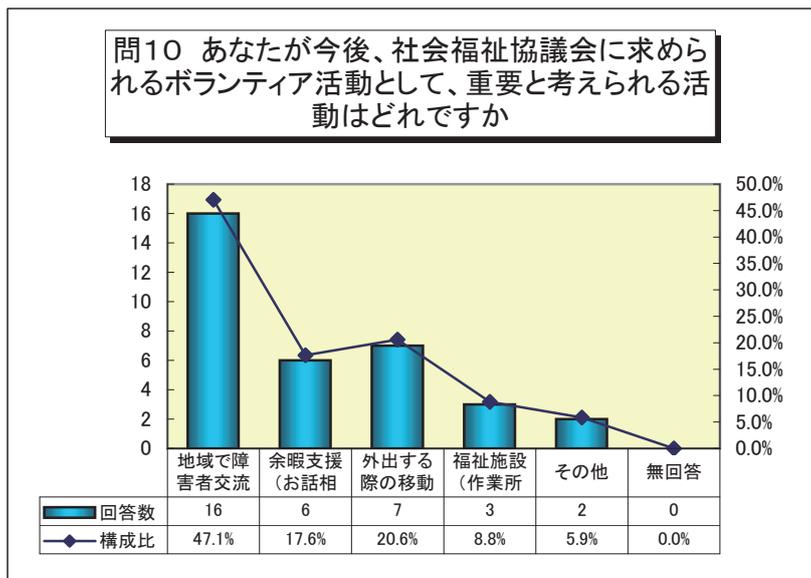
	回答数	構成比
家族	0	0.0%
隣近所の人・知人・友人	3	4.5%
障害者サロン	2	3.0%
町役場	10	14.9%
社会福祉協議会	21	31.3%
町広報誌	12	17.9%
社協広報誌	13	19.4%
町内会長	2	3.0%
民生・児童委員	2	3.0%
インターネット	1	1.5%
入手先がない	1	1.5%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	67	100.0%

社協の情報入手先については、社会福祉協議会が全体の3割を占める値となっている他、次いで、町広報誌と社協広報誌が高い値となっていますが、社協の値が高い要因としては、事務局機能が4月より社協へ移動したことが考えられる為だと考えられます。



問10 あなたが今後、社会福祉協議会に求められるボランティア活動として、重要と考えられる活動はどれですか。

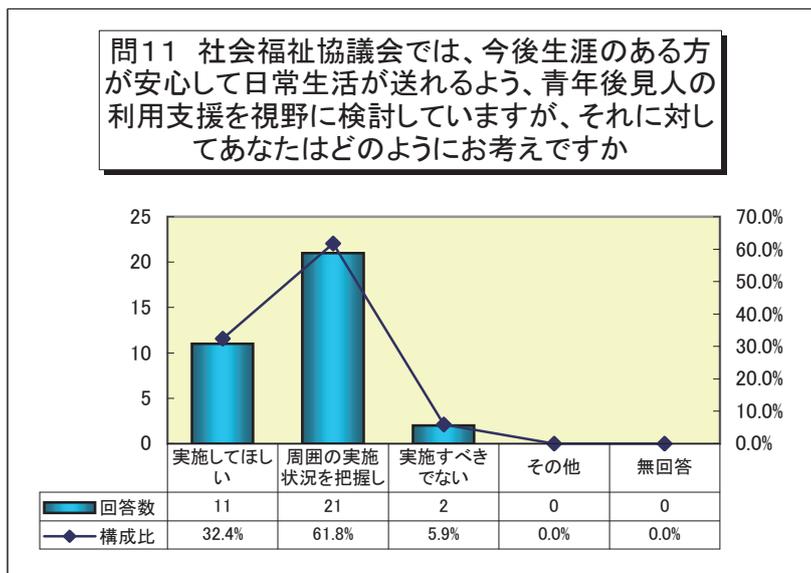
	回答数	構成比
地域で障害者交流サロンで活動するボランティア	16	47.1%
余暇支援（お話し相手）として活動する傾聴ボランティア	6	17.6%
外出する際の移動支援（介助）を行うボランティア	7	20.6%
福祉施設（作業所等）で利用者との交流やお手伝いをするボランティア	3	8.8%
その他	2	5.9%
無回答	0	0.0%
計	34	100.0%



社協に求められるボランティア活動として、家族交流レクリエーションと同じ傾向であり、地域で障害者交流サロンで活動するボランティアと外出する際の移動支援ボランティアが1・2の値を占めており、当事者のニーズに応じたボランティア育成が社協にとって大切であると感じさせられる結果となっています。

問11 社会福祉協議会では、今後生涯のある方が安心して日常生活が送れるよう、成年後見人の利用支援を視野に検討していますが、それに対してあなたはどのようにお考えですか。

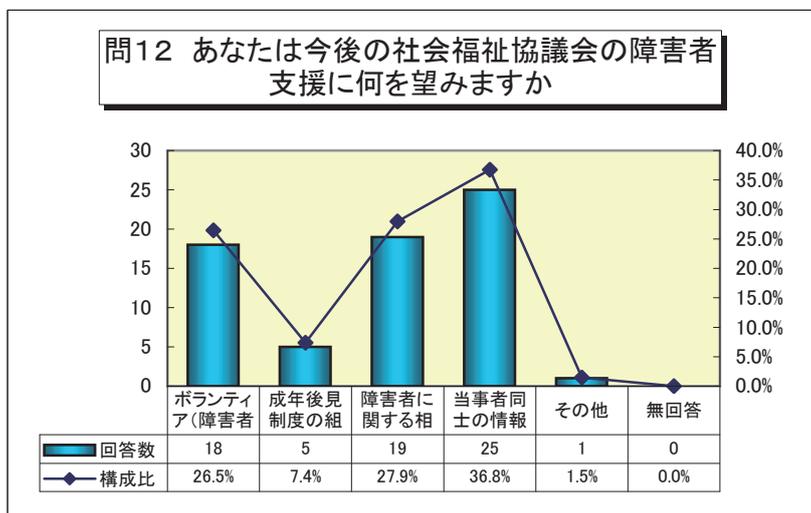
	回答数	構成比
実施してほしい	11	32.4%
周囲の実施状況を把握した上で、実施を視野に検討してほしい	21	61.8%
実施すべきでない	2	5.9%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	34	100.0%



成年後見制度についての利用支援（法人後見）については、実施する及び実施を視野に検討してほしいとの意見が9割であった為、今後の事業展開に向けたきっかけづくりとなる結果となったのではないかと考えられます。

問12 あなたは今後の社会福祉協議会の障害者支援に何を望みますか。（3つまで）

	回答数	構成比
ボランティア（障害者向け）の育成	18	26.5%
成年後見制度の組織体制整備	5	7.4%
障害者に関する相談や情報提供の充実	19	27.9%
当事者同士の情報交換	25	36.8%
その他	1	1.5%
無回答	0	0.0%
計	68	100.0%



社協の今後の障害者支援については、当事者同士の情報交換が高い値を示している。このような場の設定については、徐々にではあるが整備されている面があるとはいえ、充実すべき点があると考えられる為、今後は社協として出来る障害者支援について検討を進めるべきだと考えます。

問8 今後の「家族交流レクリエーション」の事業内容について、あなたのご意見ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

----- -----

今後の参考にああなたのご意見を伺います

問9 あなたは生活上の悩みがある場合に相談相手はいますか。(3つまで○)

- | | | |
|---------|-------------|------------|
| 1 家族 | 2 近所の人 | 3 知人や友人 |
| 4 医療機関 | 5 福祉サービス事業所 | 6 民生・児童委員 |
| 7 町内会長 | 8 町役場 | 9 社会福祉協議会 |
| 10 福祉施設 | 11 特にない | 12 その他 () |

問10 あなたが今後、社会福祉協議会に求められるボランティア活動として、重要と考えられる活動はどれですか。(1つに○)

- 1 地域での障害者交流サロンで活動するボランティア
- 2 余暇支援(お話し相手)として活動する傾聴ボランティア
- 3 外出する際の移動支援(介助)を行うボランティア
- 4 福祉施設(作業所等)で利用者との交流やお手伝いをするボランティア
- 5 その他 ()

問11 社会福祉協議会では、今後障害のある方が安心して日常生活が送れるよう、成年後見制度の利用支援(一定の要件を満たしている方を対象に社協が後見人になる「法人後見」)を視野に検討していますが、それに対してあなたはどのようにお考えですか。(1つに○)

- 1 実施してほしい
- 2 周囲の実施状況を把握した上で、実施を視野に検討してほしい
- 3 実施すべきでない
- 4 その他 ()

成年後見制度とは・・・障害や認知症などの理由で判断能力の不十分な方々に対して、不動産や預貯金などの財産を管理したり、身のまわりの世話のために介護などのサービスや施設への入所に関する契約を結んだりすることによって、判断能力の不十分な方々を保護し、支援を行う制度のことをいいます。

問12 あなたは今後の社会福祉協議会の障害者支援に何を望みますか。(3つまで○)

- 1 ボランティア(障害者向け)の育成(例:余暇支援ボランティア・福祉施設での活動)
- 2 成年後見制度の組織体制整備(例:金銭の管理や福祉サービス利用の困難な方の支援)
- 3 障害者に関する相談や情報提供の充実(例:日常生活上の福祉の困りごとについての相談)
- 4 当事者同士の情報交換(例:お互いにゆったりとお話しが出来、情報交換ができる場づくり)
- 5 その他 ()

ご協力ありがとうございました

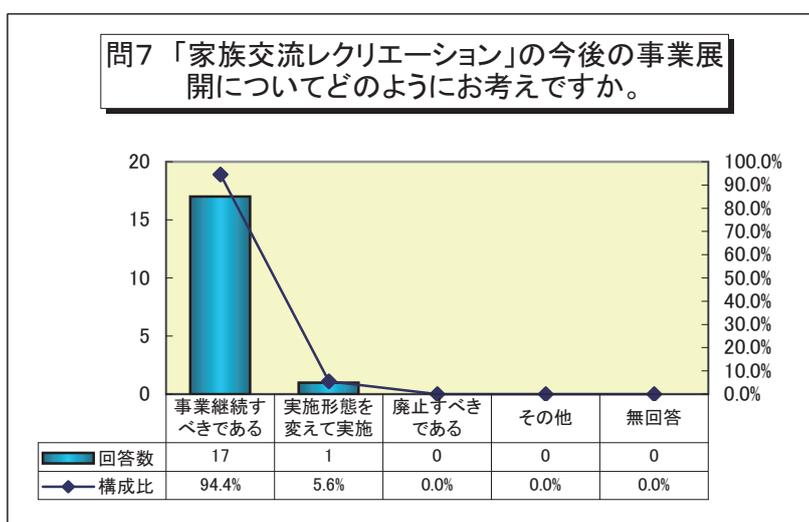
「家族交流レクリエーションに関する聞き取り調査」集計表

富谷町の手をつなぐ育成会及び精神障害者家族会（やおき会）会員の方々を対象としての調査となったが、事業展開については、9割の方々が事業継続すべきであるとの意見がありますが、中には、三団体交流会（ステップアップフェスタ）とも重なる点があり、一本化する方向も検討してよいのではないかとというような意見も聞かれ、改善検討が必要ではないかと考えます。生活上の相談相手については、家族や知人・友人の次に値が高かったのが医療機関ということで、障害者の方々に調査したアンケートの中の特色の1つではないかと考えられます。求められるボランティア活動として、地域で障害者交流サロンで活動するボランティアと外出する際の移動支援ボランティアが同数の値を占めており、当事者のニーズに応じたボランティア育成が社協にとって大切であると感じさせられる結果となっています。成年後見制度についての利用支援（法人後見）については、実施する及び実施を視野に検討してほしいとの意見がすべてであった為、今後の事業展開に向けたきっかけづくりとなる結果となったのではないかと考えられます。

問7 「家族交流レクリエーション」の今後の事業展開についてどのようにお考えですか。

	回答数	構成比
事業継続すべきである	17	94.4%
実施形態を変えて実施すべきである	1	5.6%
廃止すべきである	0	0.0%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	18	100.0%

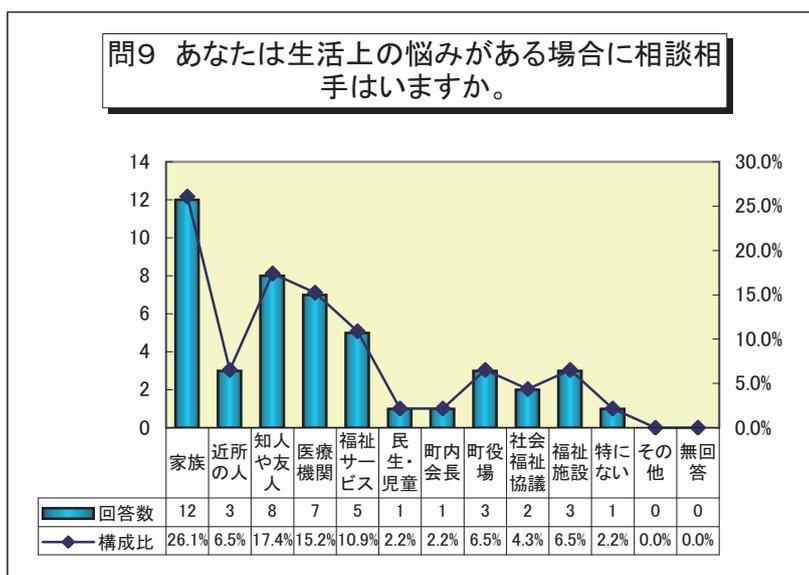
事業展開については、9割の方々が事業継続すべきであるとの意見がありますが、実施形態を変えて実施すべきであるとの意見の中には、三団体交流会（ステップアップフェスタ）とも重なる点があり、一本化する方向も検討してよいのではないかとというような意見も聞かれ、改善検討が必要ではないかと考えます。



問9 あなたは生活上の悩みがある場合に相談相手はいますか。（3つまで）

	回答数	構成比
家族	12	26.1%
近所の人	3	6.5%
知人や友人	8	17.4%
医療機関	7	15.2%
福祉サービス事業所	5	10.9%
民生・児童委員	1	2.2%
町内会長	1	2.2%
町役場	3	6.5%
社会福祉協議会	2	4.3%
福祉施設	3	6.5%
特にない	1	2.2%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	46	100.0%

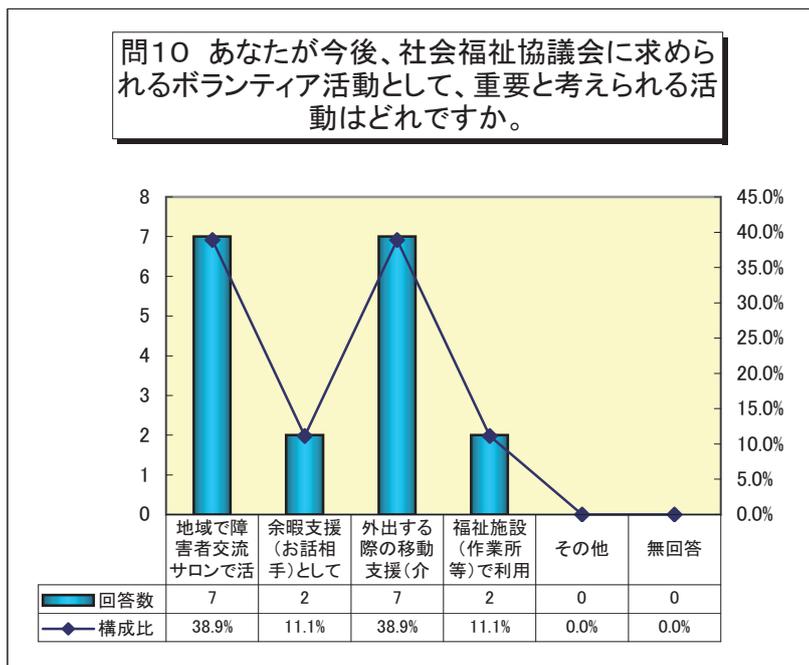
生活上の悩みがある場合の相談相手については、家族や知人・友人の次に値が高かったのが医療機関ということで、障害者の方々に調査したアンケートの中の特色の1つではないかと考えられます。



問10 あなたが今後、社会福祉協議会に求められるボランティア活動として、重要と考えられる活動はどれですか。

	回答数	構成比
地域で障害者交流サロンで活動するボランティア	7	38.9%
余暇支援（お話し相手）として活動する傾聴ボランティア	2	11.1%
外出する際の移動支援（介助）を行うボランティア	7	38.9%
福祉施設（作業所等）で利用者との交流やお手伝いをするボランティア	2	11.1%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	18	100.0%

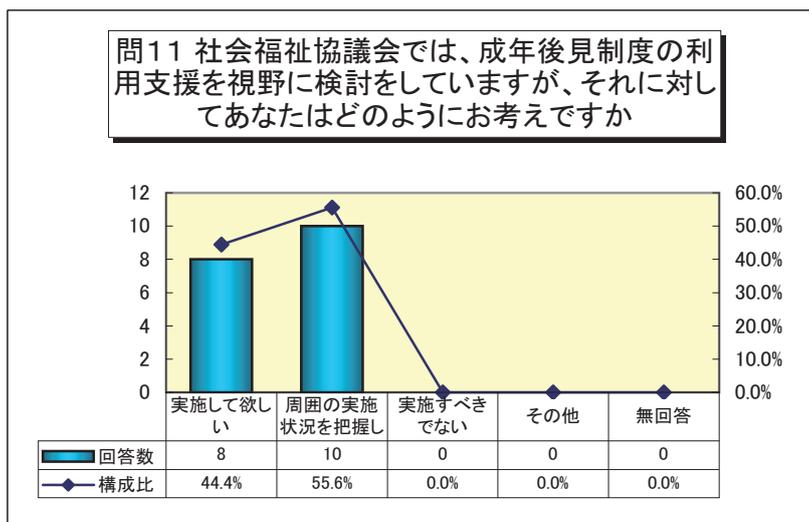
社協に求められるボランティア活動として、地域で障害者交流サロンで活動するボランティアと外出する際の移動支援ボランティアが同数の値を占めており、当事者のニーズに応じたボランティア育成が社協にとって大切であると感じさせられる結果となっています。



問11 社会福祉協議会では、今後障害者のある方が安心して日常生活が送れるよう、成年後見制度の利用支援（一定の要件を満たしている方を対象に社協が後見人になる「法人後見」）を視野に検討をしていますが、それに対してあなたはどのようにお考えですか。

	回答数	構成比
実施して欲しい	8	44.4%
周囲の実施状況を把握した上で、実施を視野に検討してほしい	10	55.6%
実施すべきでない	0	0.0%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	18	100.0%

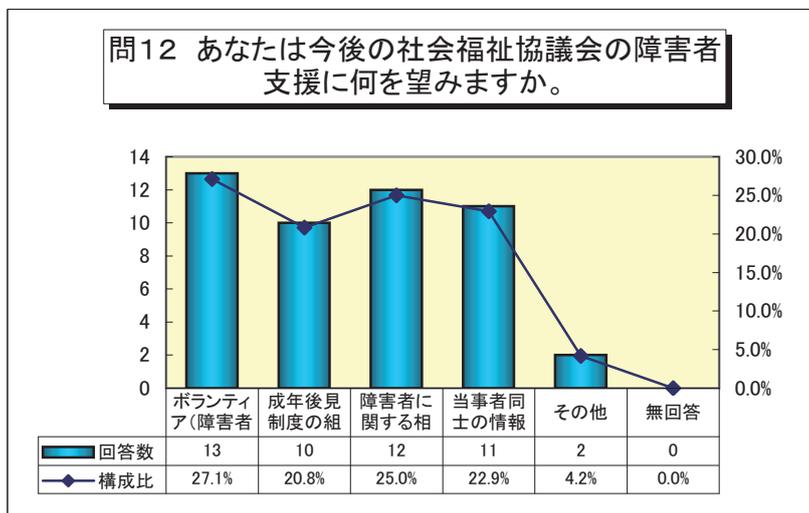
成年後見制度についての利用支援（法人後見）については、実施する及び実施を視野に検討してほしいとの意見がすべてであった為、今後の事業展開に向けたきっかけづくりとなる結果となったのではないかと考えられます。



問12 あなたは今後の社会福祉協議会の障害者支援に何を望みますか。

	回答数	構成比
ボランティア（障害者向け）の育成	13	27.1%
成年後見制度の組織体制整備	10	20.8%
障害者に関する相談や情報提供の充実	12	25.0%
当事者同士の情報交換	11	22.9%
その他	2	4.2%
無回答	0	0.0%
計	48	100.0%

社協の今後の障害者支援については、ボランティアの育成にあるような人材育成と相談や情報提供を望む声が多く、社協の今後の障害者支援にとって貴重なデータとなっています。



問7 子育てサロン「とことこ」の内容で好きなものは何ですか。(3つまで○)

- | | | |
|------------|------------|-----------|
| 1 紙芝居 | 2 手あそび | 3 フリータイム |
| 4 専門医相談 | 5 うた | 6 体操 |
| 7 絵本 | 8 劇 | 9 パネルシアター |
| 10 おもちゃあそび | 11 その他 () | |

問8 子育てサロン「とことこ」について、今後どのような場所での開催を望まれますか。(1つに○)

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1 富谷町保健福祉総合支援センター | 2 町内の公民館 |
| 3 各地区の町内会館 | 4 富谷町役場 (町民交流ホール) |
| 5 イオン富谷ショッピングセンター | 6 その他 () |

問9 今後の子育てサロン「とことこ」について、あなたのご意見ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

問10 子育てサロン「とことこ」に大きくご協力をしている子育てサポーターの方々の今後 (将来像) について、期待するものは何ですか。(1つに○)

- 1 子育てサポーターの方々が中心となり、地域での子育てサロンを展開してほしい
- 2 地域での子育ての相談役としての役割を担ってほしい
- 3 子育てサポーターだけに限らず、幅広い子育てボランティアとして活動してほしい
- 4 その他 ()

問11 社会福祉協議会では、子育て支援として、地域の自主的なサロン運営の支援や子育ての相談機能 (情報提供) の整備について、検討が必要と考えていますが、それに対してあなたはどのようにお考えですか。(1つに○)

- | | |
|----------------|-------------------------|
| 1 必要だと考える | 2 現在は必要ではないが今後必要になると考える |
| 3 今後とも必要ないと考える | 4 その他 () |

問12 問11で「1 必要だと考える」「2 現在は必要ではないが今後必要になると考える」と回答した方のみにお聞きします。あなたが、今後の社会福祉協議会の子育て支援の役割として期待するものは何ですか。(1つに○)

- 1 地域で運営する子育てサロン (自主的な活動) の活動拠点の支援を増やしてほしい
- 2 子育てに関する相談や情報提供に対応できるような整備をしてほしい
- 3 子育ての事業に対して、積極的にボランティアとして参加協力してほしい
- 4 親同士が気軽に交流でき、情報交換できるような機会を設けてほしい
- 5 その他 ()

ご協力ありがとうございました

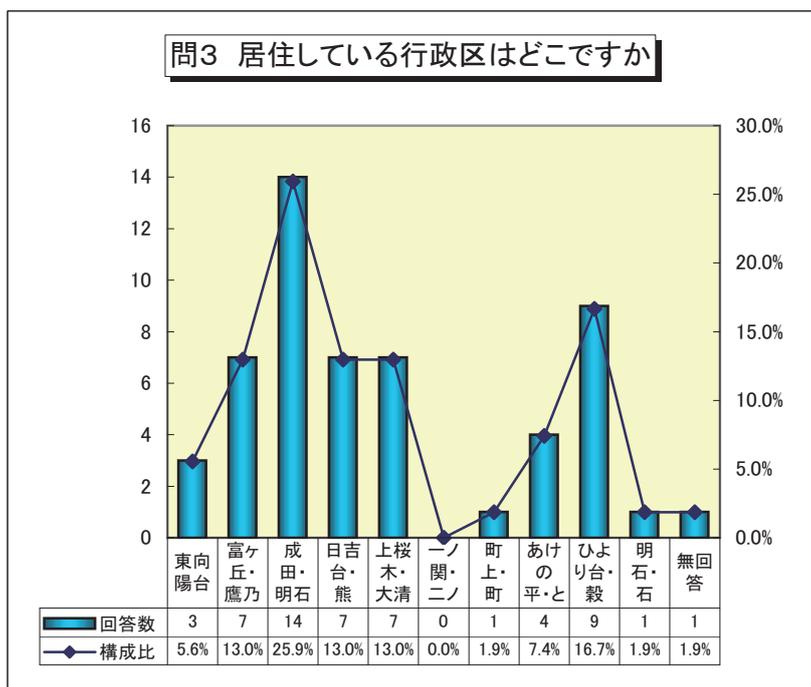
「子育てサロン「とことこ」に関する聞き取り調査」集計表

子育てサロンに参加した方々を対象として約1ヶ月間に3度実施した中での調査となったが、富谷町の中でも比較的若い世代が多いとされる成田・明石台・上桜木・大清水・杜乃橋地区で約5割の参加率となっている為、実情に比例しての参加率となっています。社協の情報入手先については、町広報誌と社協広報誌が高い値となっていますが、社協の子育てサロンで知り合った知人・友人や町役場が実施する定期健診での情報入手というのもついで高い値となっている。また、若い年代だけにインターネットを活用した情報入手（ホームページ・ブログ）も高齢者・障害者に比べ高い値を示しています。子育てサポーターの今後については、子育てサポーターが中心となり、地域での子育てサロンを展開してほしいとの意見が7割を占めている現状からも見るとおり、地域での集いの場を求めている声というものが高い事が分かります。その実情から、富谷内でも子育てサポーターが中心となって、自分が住んでいる地域で独自に子育てサロンを立ち上げている実情があることから、社協としても支援のあり方について今後大いに検討すべき点であると考えます。

問3 居住している行政区はどこですか

	回答数	構成比
東向陽台	3	5.6%
富ヶ丘・鷹乃杜	7	13.0%
成田・明石台	14	25.9%
日吉台・熊谷・杜乃橋	7	13.0%
上桜木・大清水	7	13.0%
一ノ関・二ノ関・三ノ関・志戸田	0	0.0%
町上・町中・町下	1	1.9%
あけの平・とちの木	4	7.4%
ひより台・穀田・原・太子堂	9	16.7%
明石・石積・今泉・大亀・大童・西成田	1	1.9%
無回答	1	1.9%
計	54	100.0%

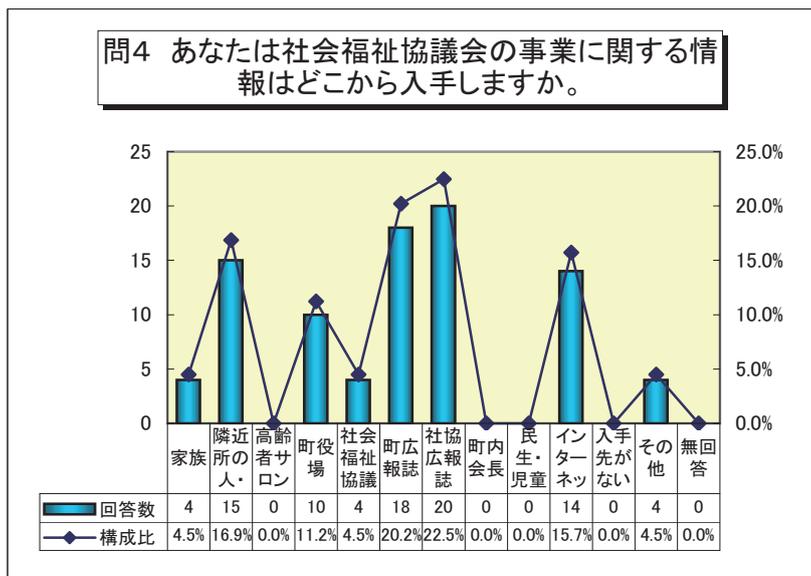
この事業自体が、保健福祉総合支援センターをはじめ、各地区の会館等を会場に開催している実情もあるが、富谷の中でも比較的若い世代が多いとされる成田・明石台・上桜木・大清水・杜乃橋地区で約5割の参加率となっている為、実情に比例しての参加率となっています。



問4 あなたは社会福祉協議会の事業に関する情報はどこから入手しますか。(3つまで)

	回答数	構成比
家族	4	4.5%
隣近所の人・知人・友人	15	16.9%
高齢者サロン	0	0.0%
町役場	10	11.2%
社会福祉協議会	4	4.5%
町広報誌	18	20.2%
社協広報誌	20	22.5%
町内会長	0	0.0%
民生・児童委員	0	0.0%
インターネット	14	15.7%
入手先がない	0	0.0%
その他	4	4.5%
無回答	0	0.0%
計	89	100.0%

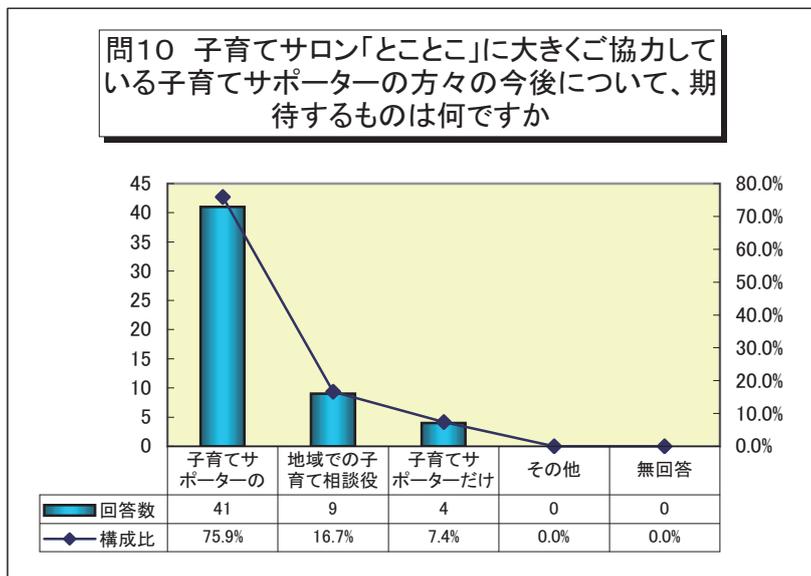
社協の情報入手先については、町広報誌と社協広報誌が高い値となっていますが、社協の子育てサロンで知り合った知人・友人や町役場が実施する定期健診での情報入手というのもついで高い値となっている。また、若い年代だけにインターネットを活用した情報入手（ホームページ・ブログ）も高齢者・障害者に比べ高い値を示しています。



問10 子育てサロン「とことこ」に大きくご協力している子育てサポーターの方々の今後について、期待するものは何ですか。

	回答数	構成比
子育てサポーターの方々が中心となり、地域での子育てサロンを展開してほしい	41	75.9%
地域での子育て相談役としての役割を担ってほしい	9	16.7%
子育てサポーターだけに限らず、幅広い子育てボランティアとして活動してほしい	4	7.4%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	54	100.0%

サポーターの今後については、子育てサポーターが中心となり、地域での子育てサロンを展開してほしいとの意見が7割を占めている現状からも見るとおり、地域での集いの場を求めている声というものが高い事が分かります。その実情から、富谷内でも子育てサポーターが中心となって、自分が住んでいる地域で独自に子育てサロンを立ち上げている実情があることから、社協としても支援のあり方について今後大いに検討すべき点であると考えます。

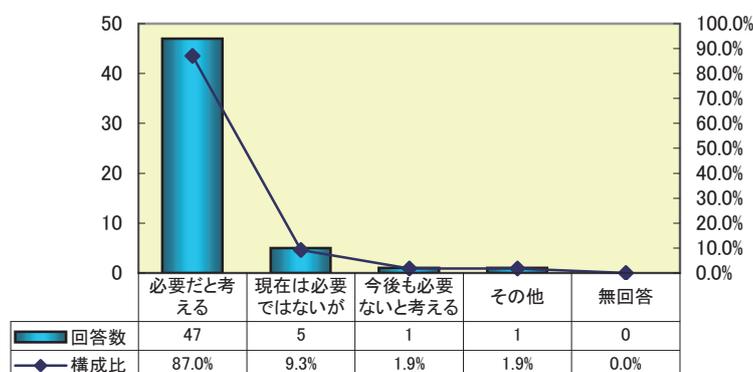


問11 社会福祉協議会では、子育て支援として、地域の自主的なサロン運営の支援や子育ての相談機能（情報提供）の整備について、検討が必要と考えていますが、それに対してあなたはどのようにお考えですか。

	回答数	構成比
必要だと考える	47	87.0%
現在は必要ではないが今後必要になると考える	5	9.3%
今後も必要ないと考える	1	1.9%
その他	1	1.9%
無回答	0	0.0%
計	54	100.0%

社協としての子育て支援機能の整備について、必要だと考えている方が8割と高い値を示している事から、社協だけではなく町全体として、子育て支援機能の整備を進めていく必要がある貴重な声だと考えています。この点については、行政とも連携を取りながら、実施計画に反映させるべき点ではないかと考えられます。

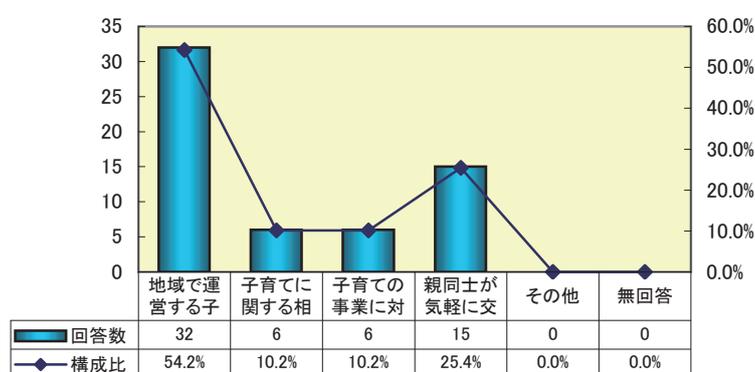
問11 社会福祉協議会では、子育て支援として、地域の自主的なサロン運営の支援や子育ての相談機能（情報提供）の整備について、検討が必要と考えていますが、それに対してあなたはどのようにお考えですか



問12 あなたが、今後の社会福祉協議会の子育て支援の役割として期待するものは何ですか。

	回答数	構成比
地域で運営する子育てサロン（自主的な活動）の活動拠点の支援を増やしてほしい	32	54.2%
子育てに関する相談や情報提供に対応できるような整備をしてほしい	6	10.2%
子育ての事業に対して、積極的にボランティアとして参加協力をしてほしい	6	10.2%
親同士が気軽に交流でき、情報交換できるような機会を設けてほしい	15	25.4%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
計	59	100.0%

問12 あなたが、今後の社会福祉協議会の子育て支援の役割として期待するものは何ですか



社協の今後の子育て支援については、問10にもあるとおり、地域での子育てサロンの活動拠点の支援が5割を超えている声として届いている。また、高齢者や障害者にもあったような情報交換（情報提供）できるような場を設ける事も必要との値も高くなっており、今後は社協として出来る子育て支援について検討を進めるべきだと考えます。

平成 2 2 年 1 1 月 1 日

福祉活動推進委員長 各 位

富谷町社会福祉協議会事務局

「地域福祉の推進に関するアンケート調査」協力について（お願い）
晩秋の候 貴殿におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

また、日ごろ社会福祉協議会の事業運営につきましては、格段のご支援ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

社会福祉協議会では、昨今の住民の福祉ニーズが多様化している状況を改めて認識し、地域住民及び福祉関係団体の参画や協働により、これまでの事業を効率的、効果的に実施展開し事業運営に努めて参りました。

この度、平成 2 3 年度～平成 2 5 年度までの「富谷町社会福祉協議会地域福祉活動推進計画」の見直し実施計画策定にあたり、地域の皆様より幅広いご意見やご要望を伺いたく、今回、「地域福祉の推進に関するアンケート調査」を実施させていただくことになりました。

つきましては、時節柄ご多忙の折誠に恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解いただき、福祉活動推進委員長のご配慮によりまして、**貴町内会にお住まいの住民の方5名**の方々に配布のご協力をいただき、ご記入ご回答につきまして特段のご協力をいただきますようお願いいたします。

〒981-3311

宮城県黒川郡富谷町富谷字桜田 1-1

社会福祉法人富谷町社会福祉協議会

（富谷町保健福祉総合支援センター内）

TEL022-358-3981 FAX022-358-3512

担当 伊 藤 村 上 佐 々

地域福祉の推進に関するアンケートご協力のお願ひ

拝 啓

時下 皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、日ごろ社会福祉協議会の事業につきましては、格段のご支援ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

さて、社会福祉協議会では、今年度「地域福祉活動推進計画」の実施計画の見直し期間となっております。この実施計画は、平成23年度～平成25年度までの3カ年間であります。向後において、福祉課題を幅広く分析し、今後の地域福祉の充実化を図りながら、昨今の多様化している住民の福祉ニーズに柔軟に対応し、地域福祉の推進と向上に努めるために、皆様からの幅広いご意見やご要望を伺いたく、今回「地域福祉の推進に関するアンケート」について、住民の方々にアンケート調査を実施させていただくことになりました。

今回ご協力いただいたアンケート調査結果につきましては、「社協だより」にて皆様にご報告させていただきます。また、アンケート集計に関しましては、調査解析ソフト等を使用し、統計的に処理いたしますので、回答者の個人情報特定されることはないと共に、アンケートの回答を本調査の目的以外に使用することは一切ありません。

つきましては、時節柄ご多忙の折誠に恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご記入ご回答につきまして特段のご協力をいただきますようよろしくお願ひいたします。

敬 具

平成22年11月

社会福祉法人富谷町社会福祉協議会

地域福祉の推進に関するアンケート調査

調査票のご記入にあたって

- 1 この調査票は、差出人の方がご記入いただきますようお願いいたします。
- 2 ご記入は、黒の鉛筆またはボールペンでお願いします。
- 3 ご回答は、あてはまる項目の番号に○をつけてください。
- 4 質問によって、「あてはまるものすべて」を選ぶものと、○は「1つ」「3つまで」と選ぶ数が決まっているものがありますので、ご注意ください。
- 5 ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒にて、11月22日（月）までにご返送くださいますようお願いいたします。
- 6 ご不明な点がございましたら、お手数ですが下記までお問い合わせください。

◎アンケート調査にご協力下さるようお願い申し上げます。

○お問い合わせ先

社会福祉法人富谷町社会福祉協議会

〒981-3311

宮城県黒川郡富谷町富谷字桜田1-1（富谷町保健福祉総合支援センター内）

担当：伊藤村上佐々

TEL 022-358-3981 FAX 022-358-3512

URL <http://www.tomiya-shakyo.or.jp/>

Blog tomiya-shakyo.sblo.jp

E-mail tomiya-shakyo@cap.ocn.ne.jp

地域福祉の推進に関するアンケート調査

社会福祉法人富谷町社会福祉協議会

「あなた」についてお伺いします。

問1 性別はどちらですか。(1つに○)

- 1 男 2 女

問2 年齢はいくつですか。(1つに○)

- 1 20歳未満 2 20歳以上30歳未満
3 30歳以上40歳未満 4 40歳以上50歳未満
5 50歳以上60歳未満 6 60歳以上70歳未満
7 70歳以上

問3 居住している行政区はどこですか。(1つに○)

- 1 東向陽台 2 富ヶ丘・鷹乃杜 3 成田・明石台
4 日吉台・熊谷・杜乃橋 5 上桜木・大清水 6 一ノ関・二ノ関・三ノ関・志戸田
7 町上・町中・町下 8 あけの平・とちの木 9 ひより台・穀田・原・太子堂
10 明石・石積・今泉・大亀・大童・西成田

問4 あなたは社会福祉協議会の事業に関する情報はどこから入手しますか。(3つまで○)

- 1 家族 2 隣近所の人・知人・友人 3 障害者サロン
4 町役場 5 社会福祉協議会 6 町広報誌
7 社協広報誌 8 町内会長 9 民生・児童委員
10 インターネット 11 入手先がない 12 その他()

あなたがお住まいの地域で行われている福祉活動について、お考えを伺います。

問5 あなたは今後、地域福祉活動の一員として活動に参加する意思はありますか。(1つに○)

- 1 はい 2 いいえ 3 わからない
(2 いいえの理由)

問6 あなたは、日頃、地域での役割や住民同士のつながりについて、どのようなお考えをお持ちですか。(1つに○)

- 1 日頃から助け合う関係でありたい
2 緊急時や災害時に助け合う関係でありたい
3 わずらわしく積極的には付き合いたくない
4 その他()

問7 あなたが、地域のなかで、安心して暮らせるためにできることはありますか。(3つまで○)

- 1 普段のあいさつなど 2 散歩や外出の付き添い
3 声かけ、見守り、話し相手など 4 掃除などの簡単な身の回りの世話
5 支援したいが、自分のことで精一杯 6 地域の方が気軽に集まれる場所の提供
7 できることはない 8 その他()
9 青少年の健全育成 10 考えたことがないので分からない

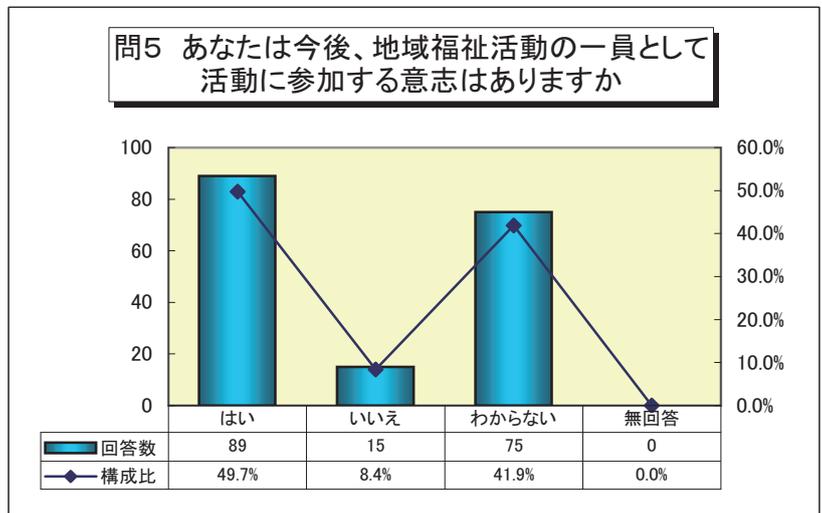
「地域福祉の推進に関するアンケート調査」集計表

福祉活動推進委員長（町内会長）を通じ、各地区5名ずつでの調査となったが、地域福祉活動の一員としての参加意志についての設問だが、はいと答えた方が約5割となっている半面で、分からないと答えている方も4割程度いることが伺えます。要因としては、自分自身何かに関わりたいと思っているが、どのように活動したら良いか分からないという方の回答がわからないに集中したのではないかと考えられます。地域での役割や住民同士のつながりについては、日頃から助け合う関係でありたいと緊急時や災害時に助け合う関係でありたいの2つで、9割超えの回答となっており、何らかの形でつながりは求めている実情が伺えます。福祉活動の問題点については、地域住民の関心が低いことと活動内容があまり知られていないことが2つで5割程度の回答となっています。この問題点の解決には、社協だけではなく意識啓発の事業等について、行政とも連携を図りながら進めていきたいと考えています。地域として取り組むべき課題としては、防災・災害時の対応と地域コミュニティづくりについての値が上位に位置づけられており、社協の現在の実実施計画の中にもある部分の災害ボランティア体制整備と地域コミュニティづくりの部分の推進が改めて大切である事が結果からも分かります。

問5 あなたは今後、地域福祉活動の一員として活動に参加する意志はありますか

	回答数	構成比
はい	89	49.7%
いいえ	15	8.4%
わからない	75	41.9%
無回答	0	0.0%
計	179	100.0%

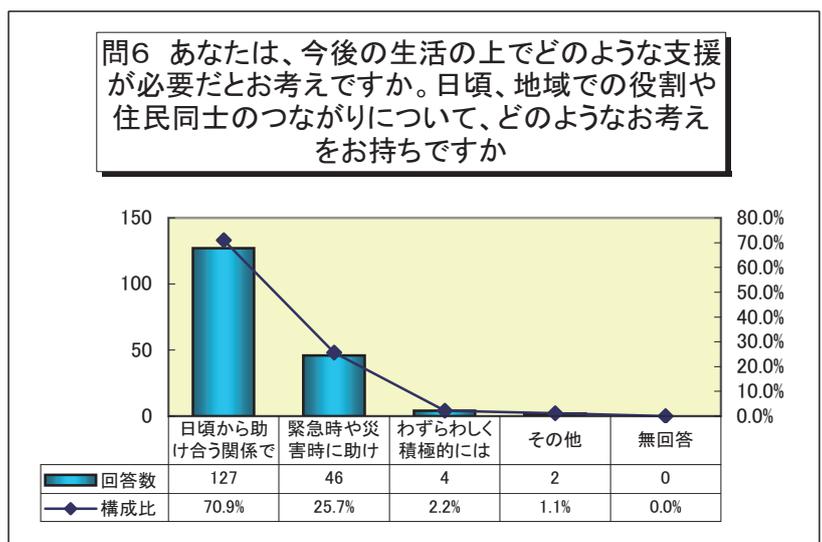
地域福祉活動の一員としての参加意志についての設問だが、はいと答えた方が約5割となっている半面で、分からないと答えている方も4割程度いることが伺えます。要因としては、自分自身何かに関わりたいと思っているが、どのように活動したら良いか分からないという方の回答がわからないに集中したのではないかと考えられます。



問6 あなたは、日頃、地域での役割や住民同士のつながりについて、どのようなお考えをお持ちですか。

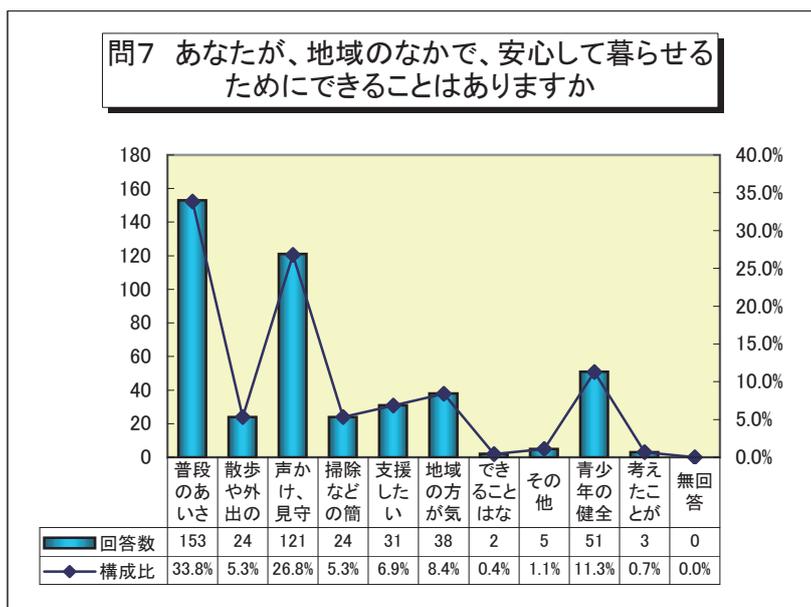
	回答数	構成比
日頃から助け合う関係でありたい	127	70.9%
緊急時や災害時に助け合う関係でありたい	46	25.7%
わずらわしく積極的には付き合いたくない	4	2.2%
その他	2	1.1%
無回答	0	0.0%
計	179	100.0%

地域での役割や住民同士のつながりについて設問しているが日頃から助け合う関係でありたいと緊急時や災害時に助け合う関係でありたいの2つで、9割超えの回答となっており、何らかの形でつながりは求めている実情が伺えます。



問7 あなたが、地域のなかで、安心して暮らせるためにできることはありますか。（3つまで）

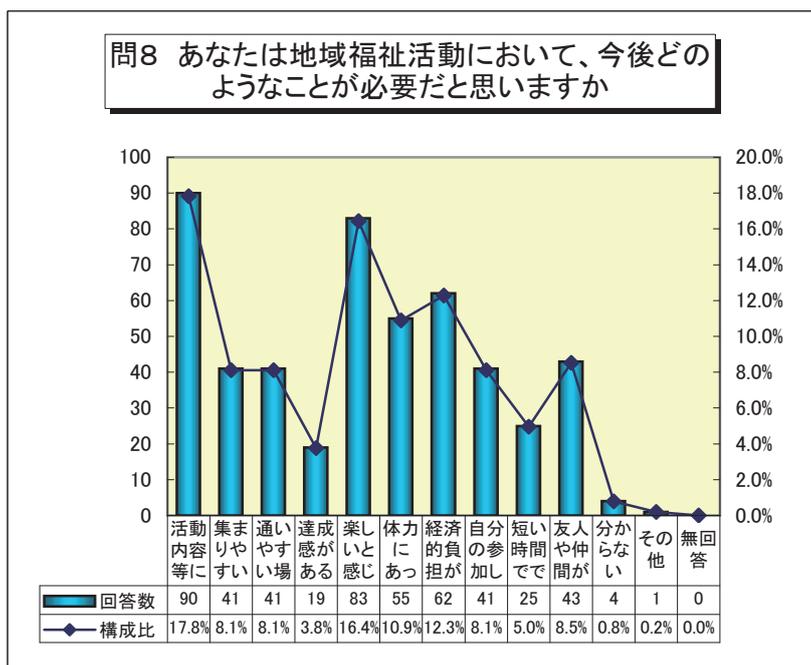
	回答数	構成比
普段のあいさつなど	153	33.8%
散歩や外出の付き添い	24	5.3%
声かけ、見守り、話し相手など	121	26.8%
掃除などの簡単な身の回りの世話	24	5.3%
支援したいが、自分のことで精一杯	31	6.9%
地域の方が気軽に集まれる場所の提供	38	8.4%
できることはない	2	0.4%
その他	5	1.1%
青少年の健全育成	51	11.3%
考えたことがないので分からない	3	0.7%
無回答	0	0.0%
計	452	100.0%



地域の中でできることについてですが、普段のあいさつと声かけ・見守り・話し相手が全体の6割を占める回答となっている。自分自身が少し手を伸ばせば実現できそうな分野だということを想定した回答ではないかと考えています。

問8 あなたは地域福祉活動において、今後どのようなことが必要だと思いますか。（3つまで）

	回答数	構成比
活動内容等に関する情報提供	90	17.8%
集まりやすい時間帯であること	41	8.1%
通いやすい場所	41	8.1%
達成感があること	19	3.8%
楽しいと感じることができ	83	16.4%
体力にあった活動内容であること	55	10.9%
経済的負担が少ないこと	62	12.3%
自分の参加したい活動であること	41	8.1%
短い時間でできる活動であること	25	5.0%
友人や仲間と一緒に参加していること	43	8.5%
分からない	4	0.8%
その他	1	0.2%
無回答	0	0.0%
計	505	100.0%



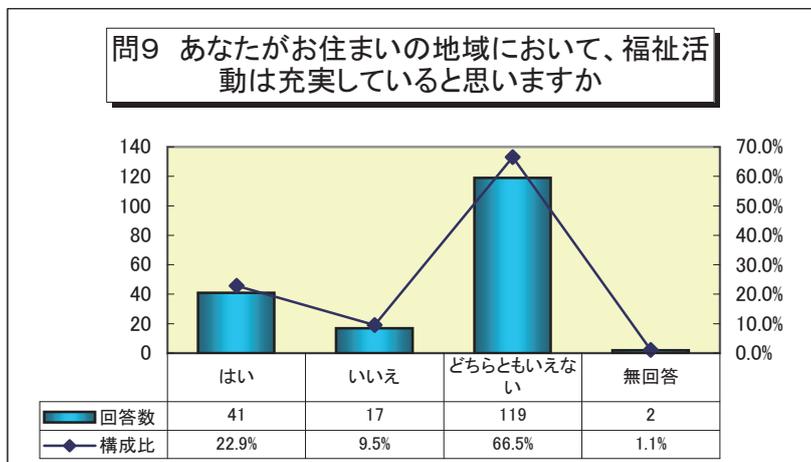
地域福祉活動について、今後どのようなことが必要かについては、活動内容等に関する情報提供及び楽しいと感じることができ、高い割合となっています。問5の分からないに回答された関係性から福祉活動の情報を伝えるということについて、どのような方法が良いのか今後の議論を要する部分だと考えています。

富谷町社会福祉協議会では、地域において、見守り、日常生活の支援、各種サロン活動等、様々な福祉活動を継続的に展開するための“地域コミュニティ”(地域での見守り・助け合い活動)の支援を計画しています。そこで、地域コミュニティについてあなたの考えを伺います。

問9 あなたがお住まいの地域において、福祉活動は充実していると思いますか。

	回答数	構成比
はい	41	22.9%
いいえ	17	9.5%
どちらともいえない	119	66.5%
無回答	2	1.1%
計	179	100.0%

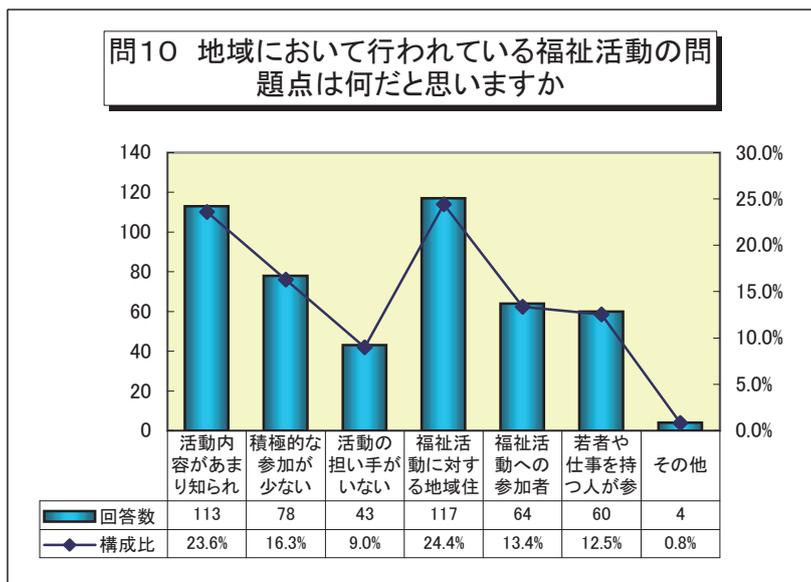
地域における福祉活動の充実についての設問では、一番回答が多かったのがどちらともいえないという方々が6割を超える部分で回答がありました。問5と同じくどのような活動が地域で展開されているのか分からないという方の回答が集中したのではないかと考えられます。



問10 地域において行われている福祉活動の問題点は何だと思えますか。(3つまで)

	回答数	構成比
活動内容があまり知られていない	113	23.6%
積極的な参加が少ない	78	16.3%
活動の担い手がいない	43	9.0%
福祉活動に対する地域住民の関心が低い	117	24.4%
福祉活動への参加者が固定化している	64	13.4%
若者や仕事を持つ人が参加しにくい	60	12.5%
その他	4	0.8%
無回答	0	0.0%
計	479	100.0%

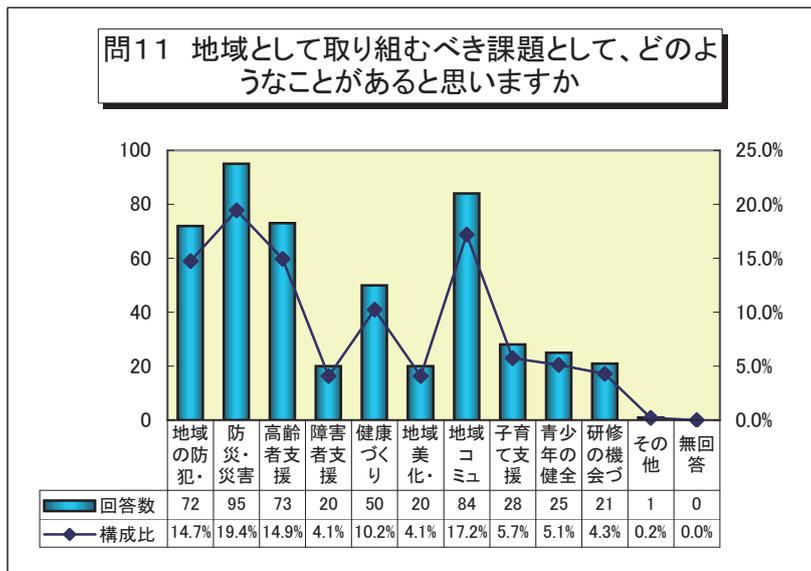
福祉活動の問題点については、地域住民の関心が低いことと活動内容があまり知られていないことが2つで5割程度の回答となっています。この問題点の解決には、社協だけではどうしようもない部分もあるため、意識啓発の事業等について、行政とも連携を図りながら進めていきたいと考えています。



問 1 1 地域として取り組むべき課題として、どのようなことがあると思いますか。（3つまで）

	回答数	構成比
地域の防犯・治安の向上	72	14.7%
防災・災害時の対応	95	19.4%
高齢者支援	73	14.9%
障害者支援	20	4.1%
健康づくり	50	10.2%
地域美化・環境活動	20	4.1%
地域コミュニティづくり	84	17.2%
子育て支援	28	5.7%
青少年の健全育成	25	5.1%
研修の機会づくり	21	4.3%
その他	1	0.2%
無回答	0	0.0%
計	489	100.0%

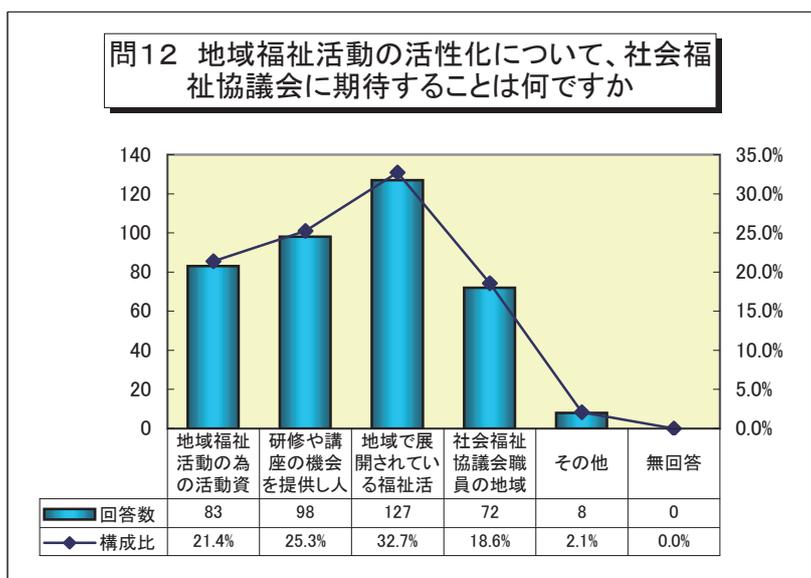
地域として取り組むべき課題としては、防災・災害時の対応と地域コミュニティづくりについての値が上位に位置づけられており、社協の現在の実施計画の中にもある部分の災害ボランティア体制整備と地域コミュニティづくりの部分の推進が改めて大切である事が結果からも分かります。



問 1 2 地域福祉活動の活性化について、社会福祉協議会に期待することは何ですか。（3つまで）

	回答数	構成比
地域福祉活動の為の活動資金の助成を行うこと	83	21.4%
研修や講座の機会を提供し人材育成を図ること（研修機会の提供等）	98	25.3%
地域で展開されている福祉活動や社会福祉協議会からの幅広い情報提供を行うこと	127	32.7%
社会福祉協議会職員の地域福祉活動への参加協力及び支援を図ること	72	18.6%
その他	8	2.1%
無回答	0	0.0%
計	388	100.0%

地域福祉活動に対して、社協に期待する部分としては、社協からの情報提供の分野と人材育成の部分についての値が高く、ボランティア関係のアンケートの回答からも類似した傾向の回答が伺えた情報提供及び人材育成については、社協の共通の課題テーマであるといえる部分の為、今後の実施計画の中でしっかりと位置づけていく部分だと考えています。



平成22年11月1日

ボランティアセンター登録者 各位

富谷町社会福祉協議会事務局

「ボランティアに関するアンケート調査」協力について（お願い）

晩秋の候 貴殿におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

また、日ごろ社会福祉協議会の事業運営につきましては、格段のご支援ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

社会福祉協議会では、昨今の住民の福祉ニーズが多様化している状況を改めて認識し、地域住民及び福祉関係団体の参画や協働により、これまでの事業を効率的、効果的に実施展開し事業運営に努めて参りました。

この度、地域で活動するボランティアの方々より幅広いご意見やご要望を伺いたく、今回、「ボランティアに関するアンケート調査」を実施させていただくことになりました。

つきましては、時節柄ご多忙の折誠に恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解いただき、ボランティアセンターの今後の事業運営のご参考にさせていただきますので、ご記入ご回答につきまして特段のご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

〒981-3311

宮城県黒川郡富谷町富谷字桜田1-1

社会福祉法人富谷町社会福祉協議会

（富谷町保健福祉総合支援センター内）

TEL022-358-3981 FAX022-358-3512

担当 伊藤村上佐々

ボランティアに関するアンケートご協力をお願い

拝 啓

時下 皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、日ごろ社会福祉協議会の事業につきましては、格段のご支援ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

さて、社会福祉協議会では、今年度「地域福祉活動推進計画」の実施計画の見直し期間となっております。この実施計画は、平成23年度～平成25年度までの3カ年間であります。向後において、福祉課題を幅広く分析し、今後の地域福祉の充実化を図りながら、昨今の多様化している住民の福祉ニーズに柔軟に対応し、地域福祉の推進と向上に努めるために、地域で活動するボランティアの方々より幅広いご意見やご要望を伺いたく、今回「ボランティアに関するアンケート」について、住民の方々にアンケート調査を実施させていただくことになりました。

今回ご協力いただいたアンケート調査結果につきましては、「社協だより」にて皆様にご報告させていただきます。また、アンケート集計に関しましては、調査解析ソフト等を使用し、統計的に処理いたしますので、回答者の個人情報特定されることはないと共に、アンケートの回答を本調査の目的以外に使用することは一切ありません。

つきましては、時節柄ご多忙の折誠に恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご記入ご回答につきまして特段のご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

敬 具

平成22年11月

社会福祉法人富谷町社会福祉協議会

ボランティアに関するアンケート調査

調査票のご記入にあたって

- 1 この調査票は、差出人の方がご記入いただきますようお願いいたします。
- 2 ご記入は、黒の鉛筆またはボールペンでお願いします。
- 3 ご回答は、あてはまる項目の番号に○をつけてください。
- 4 質問によって、「あてはまるものすべて」を選ぶものと、○は「1つ」「3つまで」と選ぶ数が決まっているものがありますので、ご注意ください。
- 5 ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒にて、11月22日（月）までにご返送くださいますようお願いいたします。
- 6 ご不明な点がございましたら、お手数ですが下記までお問い合わせください。

◎アンケート調査にご協力下さるようお願い申し上げます。

○お問い合わせ先

社会福祉法人富谷町社会福祉協議会

〒981-3311

宮城県黒川郡富谷町富谷字桜田1-1（富谷町保健福祉総合支援センター内）

担当：伊藤村上佐々

TEL 022-358-3981 FAX 022-358-3512

URL <http://www.tomiya-shakyo.or.jp/>

Blog tomiya-shakyo.sblo.jp

E-mail tomiya-shakyo@cap.ocn.ne.jp

問7 あなたがボランティア活動を行う上で困っていることは何ですか。(3つまで○)

- | | |
|------------------------|---------------------|
| 1 活動がマンネリ化してきている | 2 支援を必要とする人の情報が得にくい |
| 3 住民に情報発信する場や機会が乏しい | 4 高齢による活動の縮小化 |
| 5 地域のニーズに合った活動ができていない | 6 行政依存の意識がなかなか抜けない |
| 7 他のグループ・団体と交流する機会が乏しい | 8 会議や活動の場所の確保に苦勞する |
| 9 活動資金が足りない | 10 地域(町内会)の理解が乏しい |
| 11 その他 () | 12 特に困ったことはない |

問8 あなたはボランティアセンターをよく利用されますか。(1つに○)

- | | |
|-------------|-------|
| 1 はい | 2 いいえ |
| 3 どちらともいえない | |
| (2 いいえの理由 |) |

問9 あなたは現在のボランティアセンターに対して改善すべき点は何だと思われませんか。(1つに○)

- 1 地域で活動するボランティアやグループなどの活動を社協だよりまたはホームページ(インターネット等)で取り上げ情報発信に一層努める
- 2 地域でのボランティアニーズの把握及び掘り起こしを行い、活動内容の一層の充実に努める。
- 3 一部のボランティアのみが活動するのではなく、ボランティアセンター登録者に対して情報が提供できるようなシステムを構築するよう努める
- 4 ボランティア同士が気軽に情報交換や集まりを持てるような場所を確保するよう努める
- 5 その他 ()

問10 あなたが今後ボランティアセンターに期待することは何ですか。(3つまで○)

- | | |
|---------------------|--------------|
| 1 ボランティア登録・斡旋業務の効率化 | 2 活動の場の提供や開拓 |
| 3 活動への助言や支援 | 4 情報提供 |
| 5 地域住民の意識啓発 | 6 活動資金の助成 |
| 7 人材育成(研修機会の提供等) | 8 その他 () |

問11 ボランティア活動をさらに活性化させるために、今後ボランティアセンターではどのような取り組みが必要と考えますか。(1つに○)

- 1 個人・ボランティア団体間の交流機会の充実(イベントなど)
- 2 個人・ボランティア団体の人材育成の強化(研修や講座の実施など)
- 3 NPO団体等との連携へ向けた取り組み
- 4 グループ・団体の活動資金確保へ向けた情報提供や支援体制の充実
- 5 その他 ()

問12 その他、ボランティアセンターについて、あなたのお考えを自由にご記入ください。

以上でアンケートは終了です。ご協力誠にありがとうございました。

なお、大変お手数ではありますが、11月22日(月)までに
同封の返信用封筒にてご投函くださいますようお願い申し上げます。

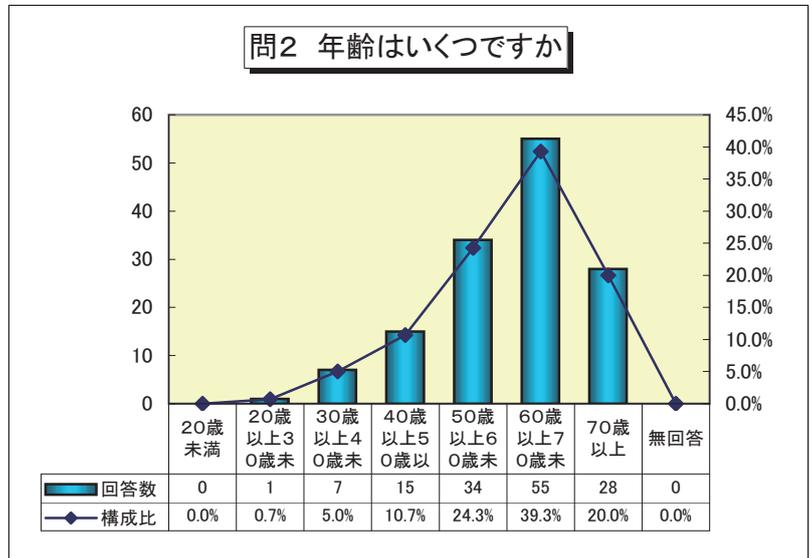
「ボランティアに関するアンケート調査」集計表

ボランティアセンター登録者を対象としての調査となったが、年齢を比較してみると、60歳以上の方々が全体の約6割を占めているとおり、若年層のボランティア人材育成（団塊の世代）や掘り起しが急務である事が結果から考えられます。ボランティア活動分野については、登録者の状況と比例しての結果となっており、高齢者支援・子育て支援分野が高い値を示している。しかし、災害体制整備の中の災害ボランティアについては、結果から見るとおり低い値となっており、ニーズに応じた人材育成も必要ではないかと考えられます。ボランティアセンターの利用有無については、いいえ及びどちらともいえない2つの合計が8割を超えており、センター機能の認識理解不足が結果からも顕著に現れている。今後ボランティアセンターに期待する事についてですが、活動への助言や支援と情報提供が割合として高い結果となりました。活動者自身が現在の活動に対して、どのような課題を抱えているのかを社協として把握しながら、適切な支援を行っていく事が改めて大切であるという結果となっています。今後のボランティアセンター活動についての設問では、個人・ボランティア団体の人材育成の強化が4割の回答ということで、社協に対するボランティアの育成を求める意見が改めて高い事が結果として現れています。この声を受け止めながら、社協としてニーズに応じたボランティア養成に答える必要があると考えられます。

問2 年齢はいくつですか

	回答数	構成比
20歳未満	0	0.0%
20歳以上30歳未満	1	0.7%
30歳以上40歳未満	7	5.0%
40歳以上50歳以上	15	10.7%
50歳以上60歳未満	34	24.3%
60歳以上70歳未満	55	39.3%
70歳以上	28	20.0%
無回答	0	0.0%
計	140	100.0%

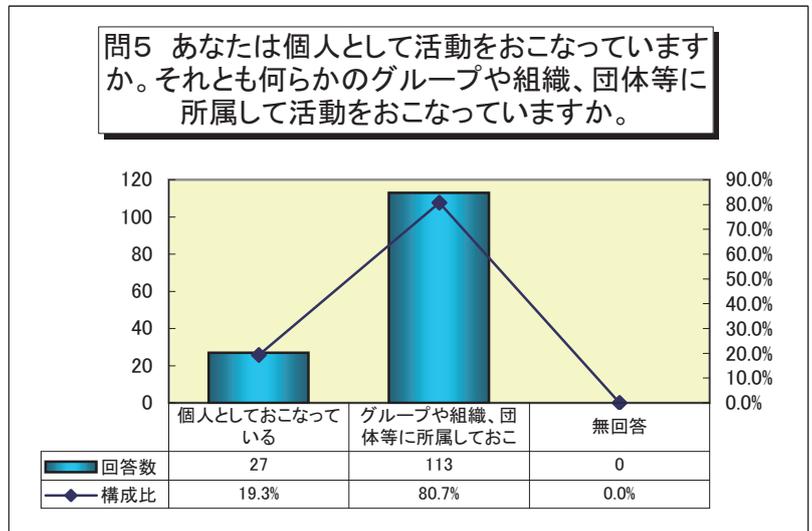
年齢を比較してみると、60歳以上の方々が全体の約6割を占めているとおり、若年層のボランティア人材育成（団塊の世代）や掘り起しが急務である事が結果から考えられます。



問5 あなたは個人として活動をおこなっていますか。それとも何らかのグループや組織、団体等に所属して活動をおこなっていますか。

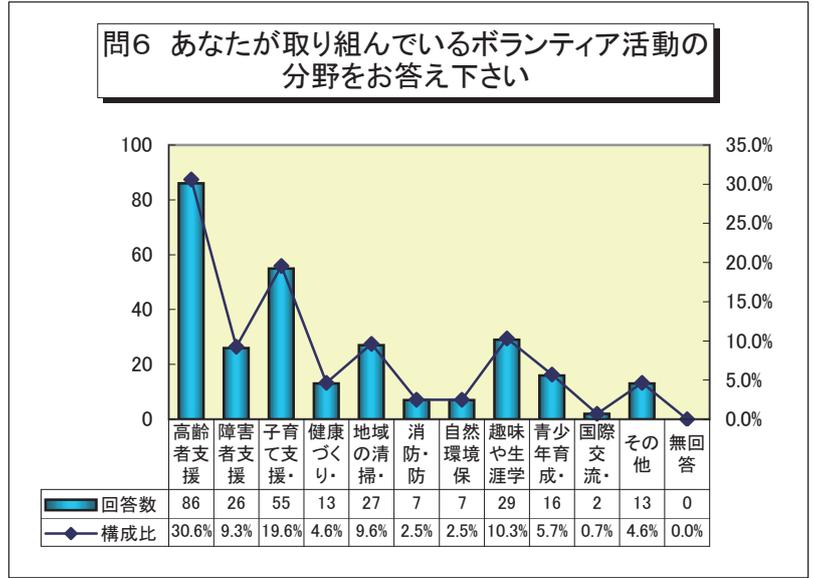
	回答数	構成比
個人としておこなっている	27	19.3%
グループや組織、団体等に所属しておこなっている	113	80.7%
無回答	0	0.0%
計	140	100.0%

個人・グループの活動の形態については、登録どおりの結果となっています。



問6 あなたが取り組んでいるボランティア活動の分野をお答え下さい。(3つまで)

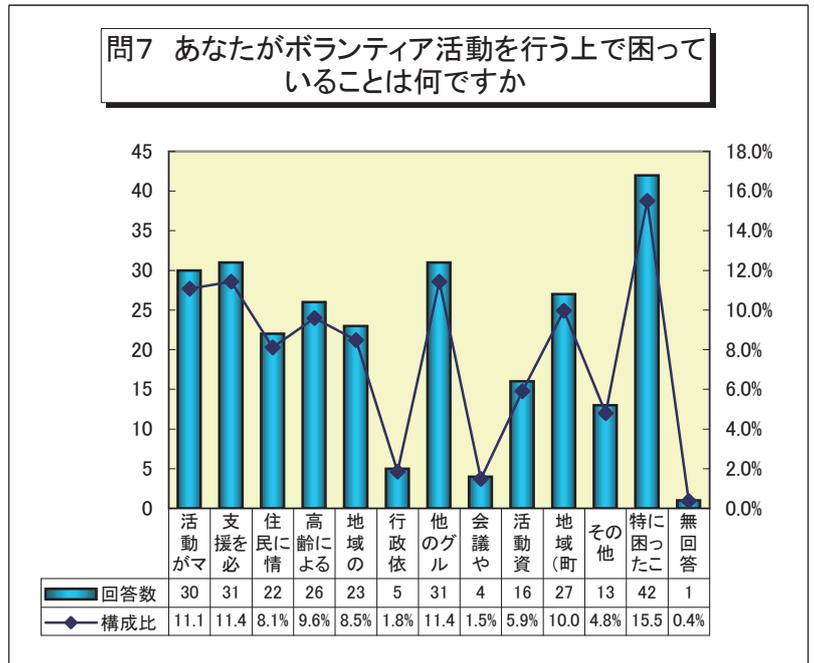
	回答数	構成比
高齢者支援	86	30.6%
障害者支援	26	9.3%
子育て支援・母子福祉	55	19.6%
健康づくり・医療	13	4.6%
地域の清掃・美化、地域おこし	27	9.6%
消防・防災・防犯・災害支援	7	2.5%
自然環境保護・リサイクル	7	2.5%
趣味や生涯学習、スポーツ指導	29	10.3%
青少年育成・支援	16	5.7%
国際交流・国際協力	2	0.7%
その他	13	4.6%
無回答	0	0.0%
計	281	100.0%



ボランティア活動分野については、登録者の状況と比例しての結果となっており、高齢者支援・子育て支援分野が高い値を示している。しかし、災害体制整備の中の災害ボランティアについては、結果から見るとおり低い値となっており、ニーズに応じた人材育成も必要ではないかと考えられます。

問7 あなたがボランティア活動を行う上で困っていることは何ですか。

	回答数	構成比
活動がマンネリ化してきている	30	11.1%
支援を必要とする人の情報が得にくい	31	11.4%
住民に情報発信する場や機会が乏しい	22	8.1%
高齢による活動の縮小化	26	9.6%
地域のニーズに合った活動ができていない	23	8.5%
行政依存の意識がなかなか抜けない	5	1.8%
他のグループ・団体と交流する機会が乏しい	31	11.4%
会議や活動の場所の確保に苦勞する	4	1.5%
活動資金が足りない	16	5.9%
地域(町内会)の理解が乏しい	27	10.0%
その他	13	4.8%
特に困ったことはない	42	15.5%
無回答	1	0.4%
計	271	100.0%

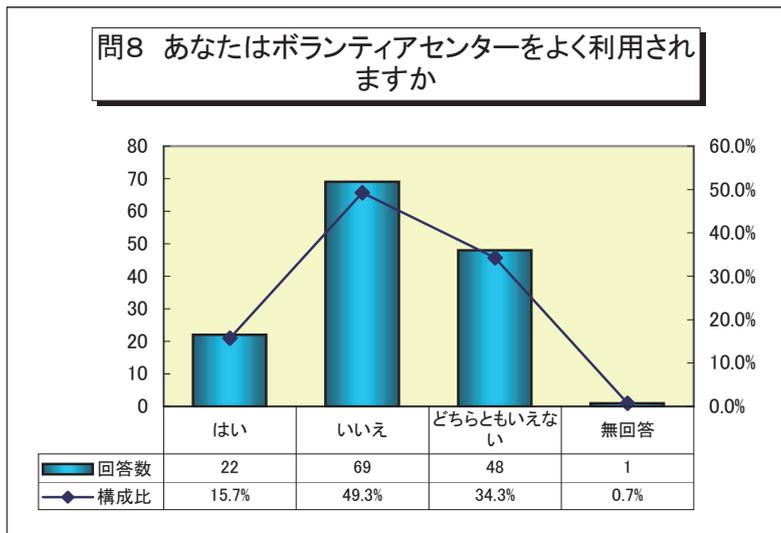


活動を行う上での困りごとですが、一番高い値が特に困ったことはないとの事で、次いで活動がマンネリ化・他団体との交流する機会が乏しいと続いている。困ったことはないとの要因としては、独自に活動している方が増え、人や情報に頼らないで活動をしているかボランティアセンター機能が認知されていない実情から、この回答に行き着いたのではないかと考えられます。

問8 あなたはボランティアセンターをよく利用されますか

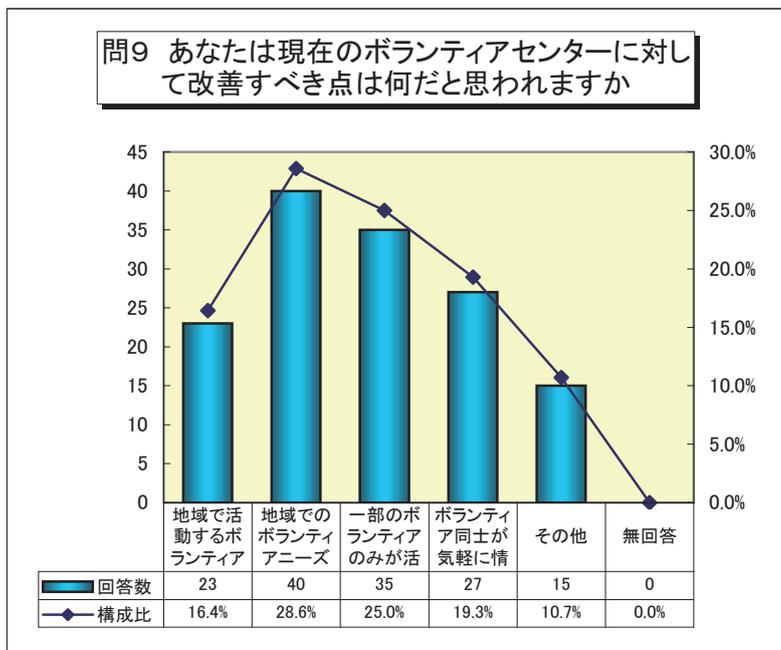
	回答数	構成比
はい	22	15.7%
いいえ	69	49.3%
どちらともいえない	48	34.3%
無回答	1	0.7%
計	140	100.0%

ボランティアセンターの利用有無については、いいえ及びどちらともいえない2つの合計が8割を超えており、センター機能の認識理解不足が結果からも顕著に現れている。急激な改善は難しい為、少しずつであるが、広報や周知徹底及び登録利用する事によってのメリットについて、説明を地道に行っていく事が必要であると考えられます。



問9 あなたは現在のボランティアセンターに対して改善すべき点は何だと思われますか。

	回答数	構成比
地域で活動するボランティアやグループなどの活動を社協だよりまたはホームページで取り上げ情報発信に一層努める	23	16.4%
地域でのボランティアニーズの把握及び掘り起こしを行い、活動内容の一層の充実に努める。	40	28.6%
一部のボランティアのみが活動するのではなく、ボランティアセンター登録者に対して情報が提供できるようなシステムを構築するよう努める	35	25.0%
ボランティア同士が気軽に情報交換や集まりをもてるような場所を確保するよう努める	27	19.3%
その他	15	10.7%
無回答	0	0.0%
計	140	100.0%

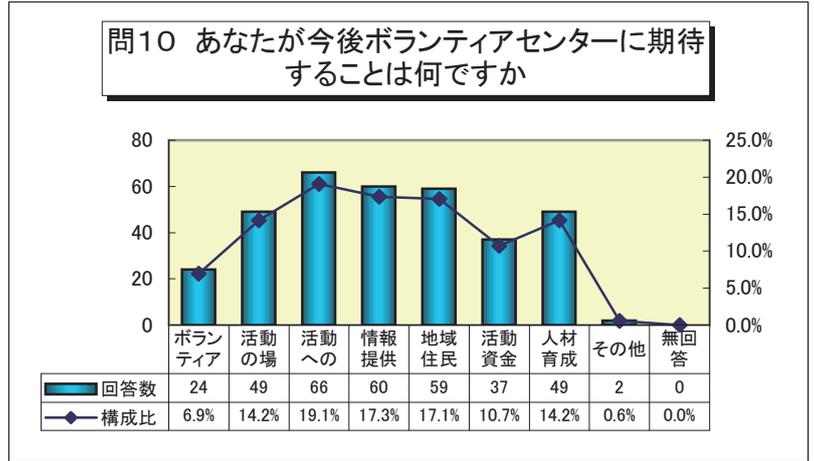


ボランティアセンターの改善点についてですが、地域でのボランティアニーズの掘り起こしとセンターの情報提供のシステム構築についての回答が1・2を占めており、5割を超える意見を頂いていますが、社協として「地域に出向く」という点において、十分ではない点がアンケートの声としてそのまま反映されたと考えられます。今後は地域の社協役員（理事・評議員・推進委員長）の方々とも協議を行いつつ、改善点について検討を行っていく必要があります。

問10 あなたが今後ボランティアセンターに期待することは何ですか。

	回答数	構成比
ボランティア登録・斡旋	24	6.9%
活動の場の提供や開拓	49	14.2%
活動への助言や支援	66	19.1%
情報提供	60	17.3%
地域住民の意識啓発	59	17.1%
活動資金の助成	37	10.7%
人材育成（研修会の提供等）	49	14.2%
その他	2	0.6%
無回答	0	0.0%
計	346	100.0%

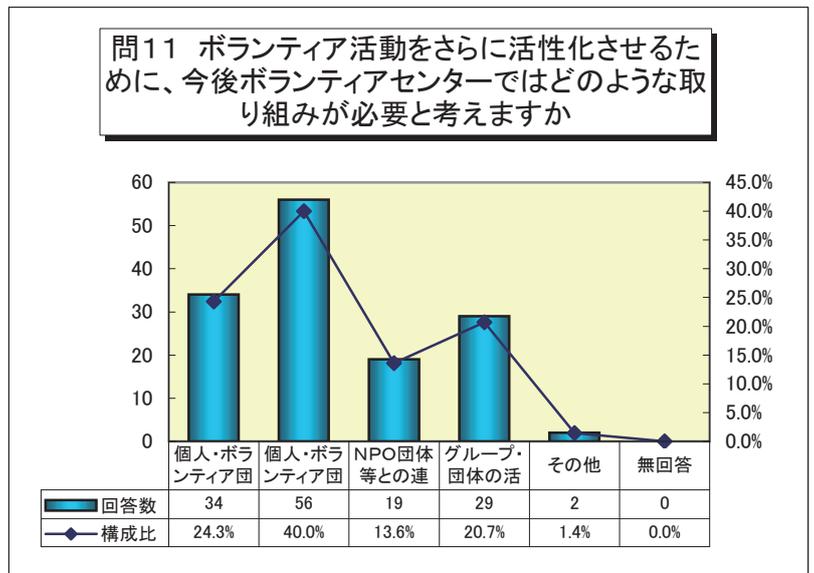
今後ボランティアセンターに期待する事についてですが、活動への助言や支援と情報提供が割合として高い結果となりました。活動者自身が現在の活動に対して、どのような課題を抱えているのかを社協として把握しながら、適切な支援を行っていく事が改めて大切であるという結果となっています。



問11 ボランティア活動をさらに活性化させるために、今後ボランティアセンターではどのような取り組みが必要と考えますか。

	回答数	構成比
個人・ボランティア団体間の交流機会の充実	34	24.3%
個人・ボランティア団体の人材育成の強化	56	40.0%
NPO団体等との連携に向けた取り組み	19	13.6%
グループ・団体の活動資金確保に向けた情報提供や支援体制の充実	29	20.7%
その他	2	1.4%
無回答	0	0.0%
計	140	100.0%

今後のボランティアセンター活動についての設問ですが、個人・ボランティア団体の人材育成の強化が4割の回答ということで、社協に対するボランティアの育成を求める意見が改めて高い事が結果として現れています。この声を受け止めながら、社協としてニーズに応じたボランティア養成に答える必要があると考えられます。

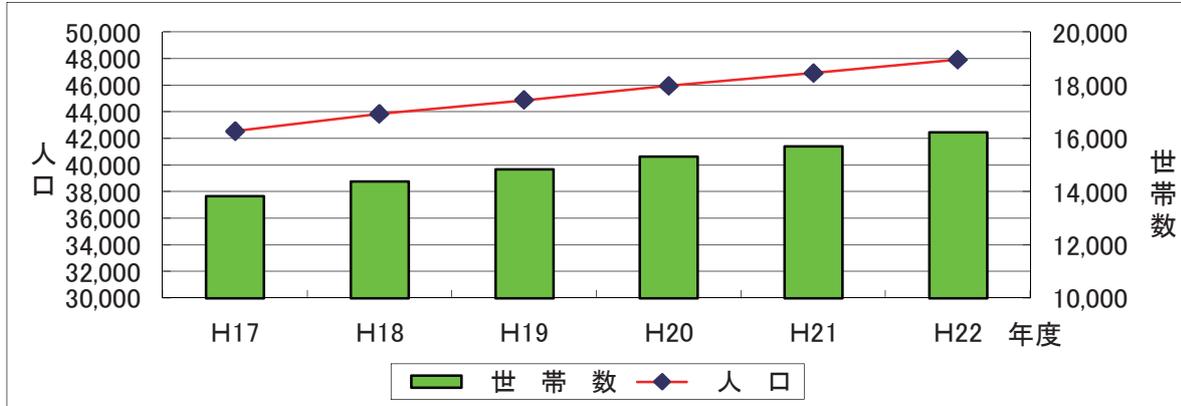


富谷町人口統計資料 (H17~22)

1 人口及び世帯数の推移

(12月末)

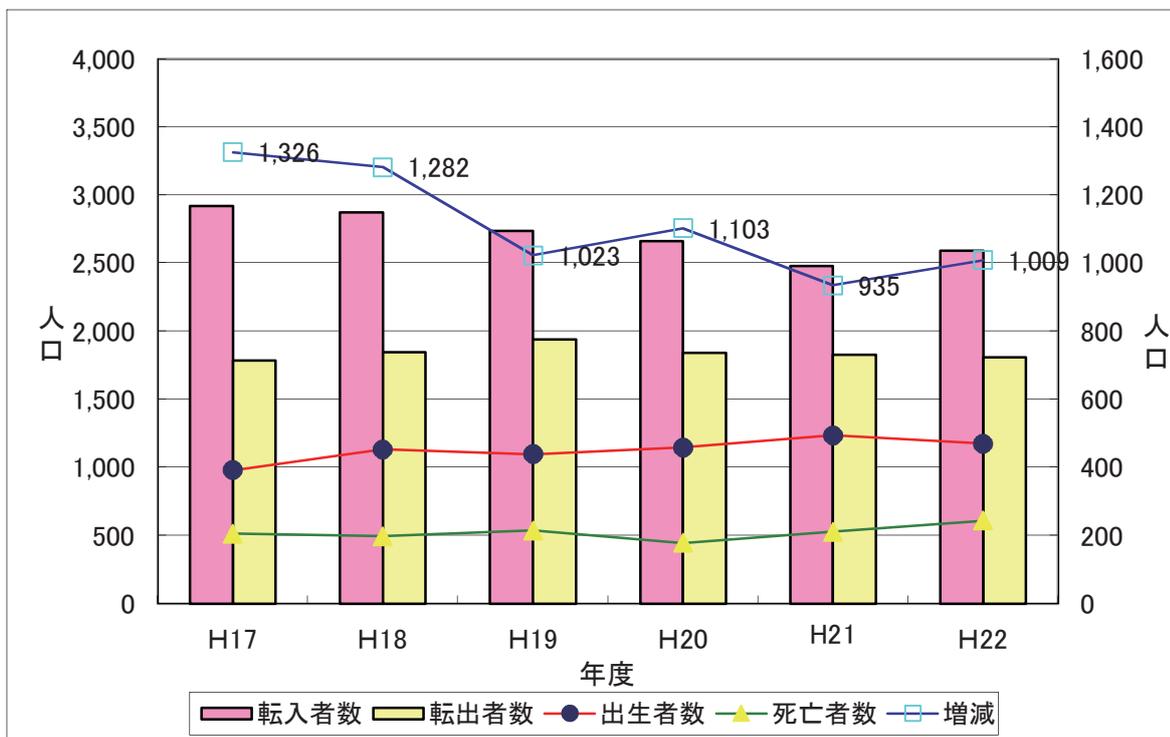
	H17	H18	H19	H20	H21	H22
人口	42,572	43,854	44,877	45,980	46,915	47,924
世帯数	13,830	14,390	14,854	15,335	15,716	16,228



2 異動事由別人口動態の推移

(1月1日~12月31日)

		H17	H18	H19	H20	H21	H22
社会異動	転入者数	2,922	2,872	2,739	2,663	2,477	2,590
	転出者数	1,783	1,845	1,940	1,840	1,825	1,807
	増減	1,139	1,027	799	823	652	783
自然異動	出生者数	392	453	439	458	494	470
	死亡者数	205	198	215	178	211	244
	増減	187	255	224	280	283	226
増減合計		1,326	1,282	1,023	1,103	935	1,009



富谷町総務部町民生活課より

地域福祉活動推進計画策定委員会日程予定

日 程	名 称	経 過 内 容
平成22年 7月20日	第1回策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○委嘱状交付について ○委員長・副委員長の選出について ○計画策定の経緯及び概要説明について ○推進計画評価について（前期分） ○今後の委員会スケジュールについて
8月30日	第2回策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○社会福祉協議会事業評価について （アンケート内容） ○今後の課題と取組について ○今後の委員会スケジュールについて
10月15日	作業部会	<ul style="list-style-type: none"> ○調査方法についての審議 （アンケート内容）
11月1日 ～ 11月22日	評価アンケート実施	<ul style="list-style-type: none"> ○住民対象にアンケートを実施 ○事業参加者に聞き取り調査を実施
11月18日	社協委員会	計画策定中間報告
～30日	推進計画アンケート集計	○内容について集計作業を行う（課題整理）
12月20日	第3回策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○評価アンケート集計結果報告 ○問題・住民ニーズ把握 ○アンケートから見える方向性
12月中旬	理事会・評議員会	計画策定中間報告
平成23年 1月20日	第4回策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○実施計画内容の検討について <ul style="list-style-type: none"> ・社協の事業計画・課題等を基に、 原案を提示
2月21日	第5回策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○実施計画の策定について <ul style="list-style-type: none"> ・計画内容の最終確認 ○推進計画の掲載内容（素案）について <ul style="list-style-type: none"> ・内容構成、配布対象について審議 ○計画内容の最終確認について ○地域福祉活動推進計画答申について
2月23日	社協委員会（総務・福祉事業）	実施計画見直し最終確認・審議
3月22日	理事会	議案提示・承認
3月25日	評議員会	議案提示・承認
4月	地域福祉活動推進計画中期実施計画施行	

社会福祉法人富谷町社会福祉協議会地域福祉活動推進計画策定委員会設置要綱

(目 的)

第1条 この委員会は、富谷町社会福祉協議会長の諮問に応じ、地域福祉活動推進計画の策定に関して、行政計画との整合性や現状の事業等の見直しを図るため、富谷町社会福祉協議会地域福祉活動推進計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置し、その組織及び運営について必要な事項を定めるものとする。

(組 織)

第2条 委員会は、14人の委員をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、社協会長が委嘱する。

- | | |
|---------------------------|----|
| (1) 社会福祉協議会理事 | 2名 |
| (2) 社会福祉協議会評議員 | 2名 |
| (3) 地域福祉活動者 | 1名 |
| (4) 学識経験者 | 1名 |
| (5) 社会福祉施設 | 2名 |
| (6) 行政区長 | 2名 |
| (7) 民生委員・児童委員 | 2名 |
| (8) 行政担当職員（総務部及び福祉部の関係課等） | 2名 |

3 委員の任期は、富谷町社会福祉協議会地域福祉活動推進計画策定終了時までとする。

(委員長及び副委員長)

第3条 委員会に委員長1名、副委員長1名を置き、委員の互選によって選任する。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会 議)

第4条 委員会の会議は、委員長が召集し、委員長が議長となる。

(費用弁償)

第5条 委員会には費用弁償として、別に定める規定により支給する。

(委員会以外の者の出席)

第6条 委員会が必要と認めるときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、社協において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員に諮って定める。

附 則

この要綱は、平成18年7月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成22年6月1日から施行する。

社会福祉法人富谷町社会福祉協議会地域福祉活動推進計画策定委員会委員名簿

NO	役職	氏名	選出基準
1	委員長	千葉芳樹	社会福祉協議会理事（富谷町社協副会長：総務運営委員長）
2	副委員長	山田吉邦	学識経験者（地域活動実践者）
3	委員	中川晴夫	社会福祉協議会理事（富谷町社協副会長：福祉事業委員長）
4	委員	佐々木国彦	社会福祉協議会評議員（町内会長）
5	委員	荒川由美子	社会福祉協議会評議員（民生委員・児童委員）
6	委員	佐々木喜衛	地域福祉活動者（前富谷町シルバー人材センター理事長）
7	委員	豊田正利	学識経験者（東北文化学園大学教授）
8	委員	北川進	社会福祉施設（宮城県社協地域福祉課地域福祉推進係長）
9	委員	馬場弘幸	社会福祉施設（ドリームライトひかりの里・代表取締役）
10	委員	笹原睦郎	町内会長（日吉台1丁目町内会）
11	委員	門間とも子	町内会長（鷹乃杜町内会）
12	委員	中川三千子	民生委員・児童委員（主任民生委員・児童委員）
13	委員	菅原俊司	行政担当職員（総務部・総務課総合防災対策監）
14	委員	安積春美	行政担当職員（福祉部・長寿福祉課長）



社会福祉法人富谷町社会福祉協議会地域福祉活動推進計画見直し策定について

答 申

平成22年7月20日付け、富社協第247号にて諮問された方針に基づき、社会福祉法人富谷町社会福祉協議会地域福祉活動推進計画見直し策定事項について、慎重に調査及び検討を重ねた結果、別紙のとおり結論を得たので答申いたします。

平成23年2月21日

社会福祉法人富谷町社会福祉協議会
会 長 葛 西 啓 藏

社会福祉法人富谷町社会福祉協議会
地域福祉活動推進計画策定委員会
委員長 千 葉 芳 樹

副委員長 山 田 吉 邦 委 員 中 川 晴 夫

委 員 佐々木 国 彦 委 員 荒 川 由美子

委 員 佐々木 喜 衛 委 員 豊 田 正 利

委 員 北 川 進 委 員 馬 場 弘 幸

委 員 笹 原 睦 郎 委 員 門 間 とも子

委 員 中 川 三千子 委 員 菅 原 俊 司

委 員 安 積 春 美

富谷町社会福祉協議会のあゆみ

年 月 日	事 業 名
昭和35年12月1日	任意団体としての富谷村社会福祉協議会が設立される
昭和59年4月2日	法人格を取得し社会福祉法人富谷町社会福祉協議会となる 事務所を富谷町役場内に置き職員3名体制でスタート (事務局長1(町民福祉課長兼務)、専門員1、職員1)
7月	身体障害児(者)の家族交流会・レクリエーション実施
11月15日	法人設立記念第1回富谷町福祉大会
12月末日	(富谷町の人口 17,519人 4,555世帯)
60年1月	社協だよりを発行開始(B5版4ページ)
4月1日	富谷町より一般職員1名派遣受入れ
5月	訪問入浴サービス事業実施(於 大衡村七峰荘)
61年2月	在宅寝たきり介護者激励会の実施
6月	独居老人世帯への会食交流会 春 各公民館で花植え交流会 秋 町内合同のもみじ狩り(日帰り旅行)
62年4月	在宅寝たきり老人に対する紙・布おむつ支給事業及び斡旋事業
6月	ボランティア菜園づくり事業の実施
63年4月1日	事務所を役場から健康センターへ移転
平成元年4月	福祉教育活動推進事業の実施 (ボランティア協力指定校・町内全校との連絡会設立)
5月	富谷町ボランティア友の会設立
6月	特殊寝台(ベッド)・車椅子・エアーマットの貸与事業の実施
12月末日	(富谷町の人口 22,871人 6,179世帯)
平成3年4月	布団乾燥事業の実施 老人昼食宅配サービス事業の実施 特別会員制度の導入(一口10,000円)
5月	社協だよりをA4版化
平成4年3月	町民福祉意識調査の実施
6月	お年寄りもしもし電話相談事業の実施
平成6年7月	ボランティアセンター運営事業の開始
10月	ボランティアコーディネーターを増員(4名体制となる) (事務局長1(福祉課長兼務)、専門員1、職員1(役場派遣)、 ボランティアコーディネーター1(臨時職員))
12月末日	(富谷町の人口 29,931人 8,538世帯)
平成7年4月	富谷町からホームヘルプ事業の受託・実施
平成8年6月1日	臨時職員を増員 事務局長1(福祉課長兼務)、専門員1、職員1(役場派遣)、 ボランティアコーディネーター1(臨時職員)、臨時職員1)
平成9年4月1日	富谷町よりの派遣職員を事務局長とし福祉課長兼務を廃止 (事務局長1(役場派遣)、専門員1、ボランティアコーディネーター1(臨時職員)、臨時職員1)
平成10年10月18日	富谷町社会福祉協議会法人化15周年記念大会開催
平成11年4月	ホームヘルプ事業を社協から民間業者に移行
12月末日	(富谷町の人口 35,617人 10,817世帯)

年 月 日	事 業 名
平成12年 4月	介護保険法施行 経理方式を複式簿記の企業会計方式へ変更
平成13年 4月	老人昼食宅配サービス事業を週1回から週5回へ拡大 ゆうゆうともとの送迎事業受託
平成15年11月 1日	福祉サービス利用援助事業（まもりーぶ）を県社協から受託
12月	15年度をもってボランティア菜園づくり事業の終了
平成16年 3月	15年度をもってお年寄りもしもし電話相談事業を終了
10月 9日	富谷町トーチランに社協として参加
12月 1日	事務所を健康センターから保健福祉総合支援センターへ移転
同 日	宮城県、富谷町及び富谷町社会福祉協議会の三者間において 「大規模災害時における災害ボランティアセンターの設置・運営に関する覚書」を締結
12月 4日	富谷町社会福祉協議会法人化20周年記念大会開催
12月末日	（富谷町の人口 41,246人 13,212世帯）
平成17年 3月	16年度をもって、ゆうゆうともとの送迎事業受託終了
4月	社協一般会費を1200円から1000円へ引き下げ
平成18年 1月	社協だよりを8ページのカラー版化
2月19日	富谷町災害ボランティアフォーラムを開催
4月	障害者自立支援法施行
5月	社協のホームページ開設
6月18日	富谷町総合防災訓練に災害ボランティアセンター設置訓練の 為、社協として初参加
9月	子育てサロン事業開始
10月	社協のホームページ内にブログ開設
12月	地域福祉活動推進計画策定委員会の初会合
平成19年 3月末日	（富谷町の人口 44,161人 14,538世帯）
5月	社協に関する意識調査アンケートの実施
10月	子育てサロン月2回実施へ
12月末日	（富谷町の人口 44,877人 14,854世帯）
平成20年 4月	地域福祉活動推進計画施行
4月	富谷町よりの派遣職員を事務局次長とし事務局長を嘱託職員 を配置 （事務局長1（嘱託職員）、事務局次長（役場派遣）専門員1、 ボランティアコーディネーター1（臨時職員）、臨時職員1） 委員会制度を改称し、総務運営委員会・福祉事業委員会とする
平成21年 7月	福祉活動専門員を1名増員 （事務局長1（嘱託職員）、事務局次長（役場派遣）専門員2、 ボランティアコーディネーター1（嘱託職員）、嘱託職員1）
平成22年 4月	ふるさと雇用再生特別基金事業にて嘱託職員を2名採用し、会 食交流事業及び福祉関係団体事務局（3団体）を受託する （事務局長1（嘱託職員）、事務局次長（役場派遣）専門員2、 ボランティアコーディネーター1（嘱託職員）、嘱託職員3）
12月末日	（富谷町の人口 47,924人 16,228世帯）
平成23年 4月	地域福祉活動推進計画中期実施計画施行

用語解説

あ行

■NPO（民間非営利組織・民間営利団体）

政府・自治体や私企業とは独立した存在として、町民・民間支援のもとで社会的な公益活動を行う組織・団体。

か行

■苦情解決制度

福祉サービスの利用者等からの苦情を解決するために整備を行う制度。苦情解決の責任者及び受付担当者を置き、中立・公正な第三者委員とともに苦情の適正な解決に努めることとされている。

さ行

■災害ボランティアセンター

主に災害発生時のボランティア活動を効率よく推進するための組織である。センターにもいくつかの役割があり、各地で研修等が行われている。

■小地域福祉活動

小地域（行政区・学校区）を単位に、地域での見守りや支援を必要とする方を対象に、近隣の人々が見守りや援助活動を展開するもの。

■スキルアップ（フォローアップ）

技量・技能向上のこと。

■成年後見制度

認知症や知的障害、精神障害の方など、判断能力が十分でない方の財産管理や身上監護を、代理権・同意権・取消権が付与された成年後見人等が行う制度。本人の判断能力に応じて、補助・保佐・後見の3タイプがある。

た行

■地域コミュニティ

住民が主体となり、お互いに支え合い、共に地域で幸せに暮らすことができるような地域社会の実現を目指し取り組んでいる活動を指す。

な行

■日常生活自立支援事業

認知症や知的障害、精神障害の方など、判断能力が十分でない方の福祉サービス利用援助や日常金銭管理サービス、書類等の預りサービスを行い、地域生活を支援する事業。

また、本事業のサービスを超える支援を必要とする方については、成年後見制度の利用が必要となり、両制度間の連携促進が求められている。

は行

■福祉体験学習

下肢・視覚・聴覚障害等の疑似体験を行い、障害をもつことについての理解を深めるとともに、相手の立場に立って考えることを目的とした学習。富谷町社協でも、指導員（インストラクター）の養成事業を行い、各学校の協力を実施している。

■ボランティアコーディネート

ボランティア活動をしたい人と必要とする人をつなぐ調整役のことを指す。

■ボランティアセンター

ボランティアセンターとは、社会福祉協議会内に設置されており、ボランティアの活性化を図る組織である。ボランティア情報の収集と発信、ボランティアコーディネート業務、ボランティアに関する研修の場や情報交換の場として機能している。



社会福祉法人

富谷町社会福祉協議会

富谷町ボランティアセンター

〒981-3311

宮城県黒川郡富谷町富谷字桜田 1 - 1

(富谷町保健福祉総合支援センター内)

T E L 022-358-3981 F A X 022-358-3512

U R L <http://www.tomiya-shakyo.or.jp/>

E-mail tomiya-shakyo@cap.ocn.ne.jp

発行：平成 23 年 5 月

編集：富谷町社会福祉協議会